

「近畿地域の活断層の長期評価（第一版）」

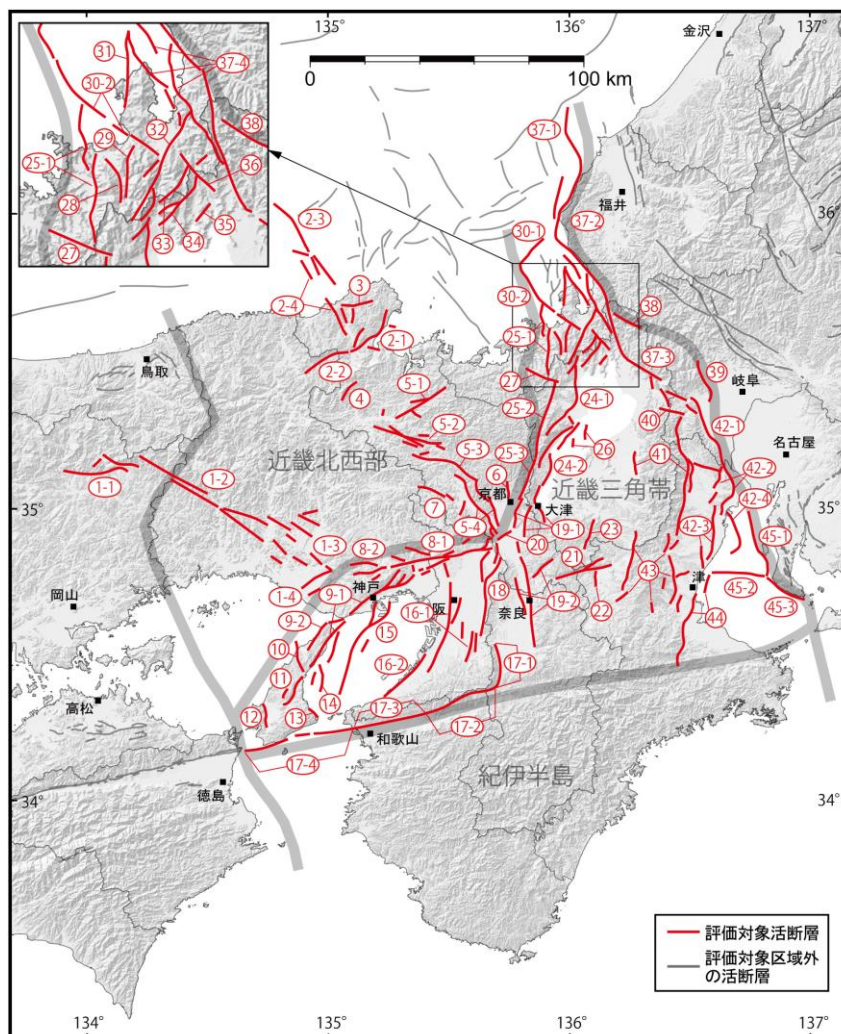
で評価対象となった活断層で発生する地震の予測震度分布（簡便法計算結果）

令和 8 年 8 月
地震調査研究推進本部事務局

地震調査研究推進本部地震調査委員会は、令和 8 年 8 月に「近畿地域の活断層の長期評価（第一版）」（以下「近畿地域の長期評価」という）を公表しました。近畿地域の長期評価では、これまで長期評価を行ってきた基盤的調査観測の対象活断層（以下、主要活断層帯）を詳細な評価の対象とし、また長さが概ね 15 km 未満と評価された断層についても簡便な評価を行いました。

今回、評価が行われたそれぞれの活断層で発生する地震に対するイメージを持っていただくことを目的に、想定されている地震が発生した場合にどの程度の揺れに見舞われる可能性があるかについて、計算を行いました。3 ページ以降に、近畿地域の長期評価における評価対象の活断層（帯）について、簡便法により予測震度分布を計算した結果を掲載しています。長期評価結果と併せて、防災対策の一助としていただければ幸いです。

< 予測震度分布図を掲載した評価対象の活断層（帯） >



断層（帯）名（区間名）			発生確率	断層（帯）名（区間名）			発生確率
*1-1 山崎断層帯・那岐山断層帯	（ 那岐山断層帯	）	Aランク	**22 大野木断層			Xランク
*1-2 山崎断層帯・那岐山断層帯	（ 山崎断層帯主部北西部区間	）	A*ランク	**23 黄瀬断層			Xランク
*1-3 山崎断層帯・那岐山断層帯	（ 山崎断層帯主部南東部区間	）	Zランク	*24-1 琵琶湖西岸断層帯	（ 琵琶湖西岸断層帯北部区間	）	S*ランク
*1-4 山崎断層帯・那岐山断層帯	（ 草谷断層	）	Zランク	*24-2 琵琶湖西岸断層帯	（ 琵琶湖西岸断層帯南部区間	）	Zランク
*2-1 山田断層帯・郷村断層帯	（ 山田断層帯東部区間	）	Xランク	*25-1 三方断層帯・花折断層帯	（ 三方断層帯	）	Zランク
*2-2 山田断層帯・郷村断層帯	（ 山田断層帯西部区間	）	A*ランク	*25-2 三方断層帯・花折断層帯	（ 花折断層帯北部区間	）	Xランク
*2-3 山田断層帯・郷村断層帯	（ 郷村断層帯北部区間	）	A*ランク	*25-3 三方断層帯・花折断層帯	（ 花折断層帯南部区間	）	Aランク
*2-4 山田断層帯・郷村断層帯	（ 郷村断層帯南部区間	）	Zランク	**26 沖島北方沖断層			Xランク
**3 中山断層			Xランク	**27 熊川断層			Xランク
**4 三岳山断層			Xランク	**28 耳川断層			Aランク
*5-1 上林川断層・三峠断層・京都西山断層帯	（ 上林川断層	）	Xランク	**29 松屋断層			Xランク
*5-2 上林川断層・三峠断層・京都西山断層帯	（ 三峠断層	）	Aランク	*30-1 野坂断層帯	（ 野坂断層帯北部区間	）	Xランク
*5-3 上林川断層・三峠断層・京都西山断層帯	（ 京都西山断層帯北西部区間	）	A*ランク	*30-2 野坂断層帯	（ 野坂断層帯南部区間	）	Zランク
*5-4 上林川断層・三峠断層・京都西山断層帯	（ 京都西山断層帯南東部区間	）	Aランク	**31 白木-丹生断層			A*ランク
**6 西賀茂断層			Aランク	*32 敦賀断層帯			Zランク
**7 埴生-猪倉断層			Aランク	**33 駄口断層			Zランク
*8-1 有馬-高槻断層帯	（ 有馬-高槻断層帯東部区間	）	Zランク	**34 路原断層			Xランク
*8-2 有馬-高槻断層帯	（ 有馬-高槻断層帯西部区間	）	Xランク	**35 岩熊断層			Xランク
*9-1 六甲・淡路島断層帯	（ 六甲・淡路島断層帯	）	S*ランク	**36 集福寺断層			Xランク
	六甲山地南縁-淡路島東岸区間						
*9-2 六甲・淡路島断層帯	（ 六甲・淡路島断層帯淡路島西岸区間	）	Zランク	*37-1 柳ヶ瀬-関ヶ原断層帯・浦底-柳ヶ瀬山断層帯	（ 柳ヶ瀬-関ヶ原断層帯北部区間	）	Aランク
**10 志筑断層			Xランク	*37-2 柳ヶ瀬-関ヶ原断層帯・浦底-柳ヶ瀬山断層帯	（ 柳ヶ瀬-関ヶ原断層帯中部区間	）	Zランク
**11 先山-安乎断層			Zランク	*37-3 柳ヶ瀬-関ヶ原断層帯・浦底-柳ヶ瀬山断層帯	（ 柳ヶ瀬-関ヶ原断層帯南部区間	）	Zランク
**12 飯山寺断層			Xランク	*37-4 柳ヶ瀬-関ヶ原断層帯・浦底-柳ヶ瀬山断層帯	（ 浦底-柳ヶ瀬山断層帯	）	S*ランク
**13 由良断層			Xランク	**38 奥川並断層			Xランク
**14 津名沖断層			Aランク	**39 池田山断層			S*ランク
*15 大阪湾断層帯			Zランク	**40 今須断層			Xランク
*16-1 上町断層帯	（ 上町断層帯主部区間	）	Zランク	*41 鈴鹿山脈東縁断層帯			Zランク
*16-2 上町断層帯	（ 上町断層帯沿岸部区間	）	Xランク	*42-1 養老-桑名-四日市断層帯	（ 養老-桑名-四日市断層帯北部区間	）	S*ランク
*17-1 中央構造線断層帯	（ 中央構造線断層帯金剛山地東縁区間	）	Zランク	*42-2 養老-桑名-四日市断層帯	（ 養老-桑名-四日市断層帯中部区間	）	S*ランク
*17-2 中央構造線断層帯	（ 中央構造線断層帯五条谷区間	）	Xランク	*42-3 養老-桑名-四日市断層帯	（ 養老-桑名-四日市断層帯南部区間	）	Aランク
*17-3 中央構造線断層帯	（ 中央構造線断層帯根来区間	）	Aランク	*42-4 養老-桑名-四日市断層帯	（ 養老-桑名-四日市断層帯鈴鹿沖区間	）	Aランク
*17-4 中央構造線断層帯	（ 中央構造線断層帯	）	A*ランク	*43 布引山地東縁断層帯			A*ランク
	紀淡海峡-鳴門海峡区間						
*18 生駒断層帯			Zランク	*44 高茶屋断層帯			S*ランク
*19-1 京都盆地-奈良盆地断層帯	（ 京都盆地-奈良盆地断層帯北部区間	）	Aランク	*45-1 伊勢湾断層帯	（ 伊勢湾断層帯北部	）	Zランク
*19-2 京都盆地-奈良盆地断層帯	（ 京都盆地-奈良盆地断層帯南部区間	）	S*ランク	*45-2 伊勢湾断層帯	（ 伊勢湾断層帯南部白子-野間区間	）	S*ランク
**20 宇治川断層			A*ランク	*45-3 伊勢湾断層帯	（ 伊勢湾断層帯南部内海区間	）	Zランク
*21 木津川断層帯			Zランク				

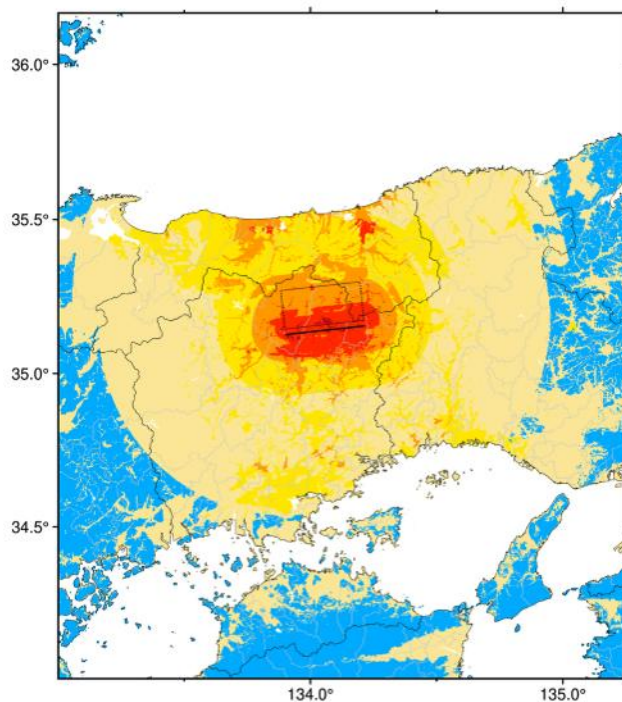
（*：主要活断層帯、**：簡便評価した活断層）

注 1）活断層における今後 30 年以内の地震発生確率が 3%以上を「Sランク」、0.1～3%を「Aランク」、0.1%未満を「Zランク」、不明（すぐに地震が起きることが否定できない）を「Xランク」と表記しています。地震後経過率が 0.7 以上である活断層については、ランクに「*」を付記しています。地震後経過率とは、最新活動（地震発生）時期から評価時点までの経過時間を、平均活動間隔で割った値です。最新の地震発生時期から評価時点までの経過時間が、平均活動間隔に達すると 1.0 となります。

注 2）中央構造線断層帯の予測震度分布につきましては、平成 29 年 12 月に公表済みの「四国地域の活断層の長期評価（第一版）」で評価対象となった活断層で発生する地震の予測震度分布（簡便法計算結果）」を参照ください。

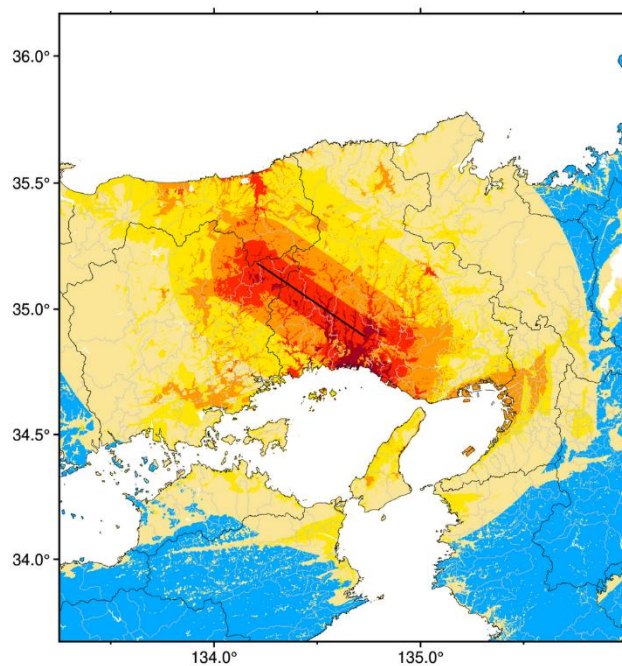
【参考】山崎断層帯・那岐山断層帯の地震による予測震度分布（簡便法）

那岐山断層帯

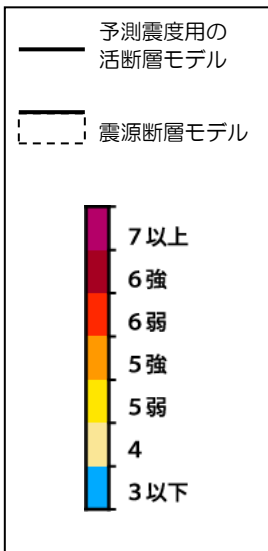


強い揺れになる地域の広がりを目安を示したものです。実際は予測よりも大きな揺れになることがあります。

山崎断層帯主部 北西部区間



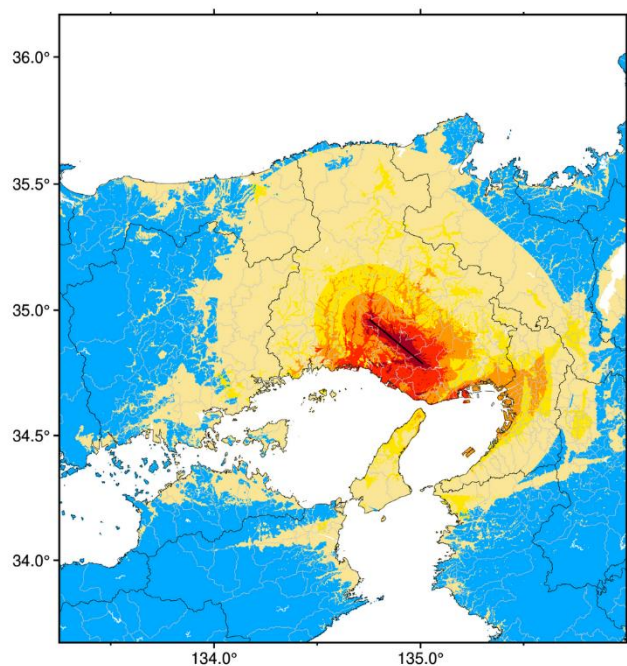
強い揺れになる地域の広がりを目安を示したものです。実際は予測よりも大きな揺れになることがあります。



活断層モデル：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。

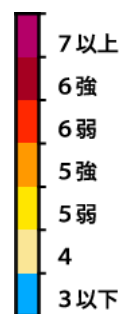
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

山崎断層帯主部 南東部区間

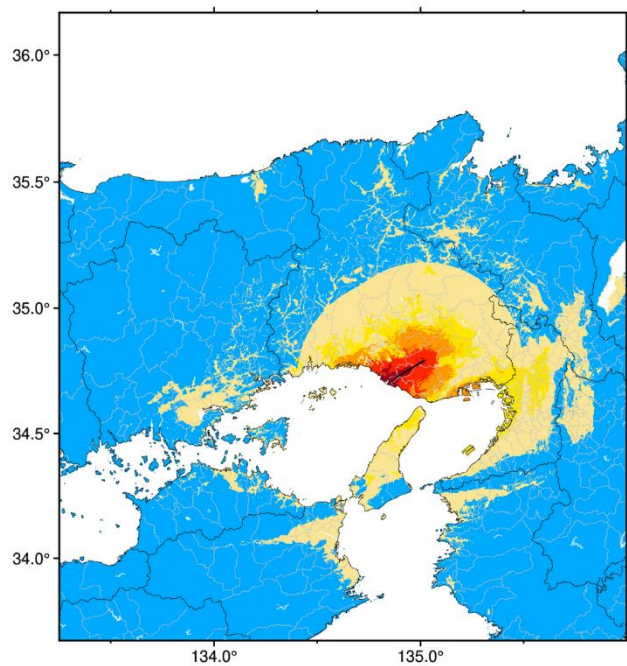


強い揺れになる地域の広がりを目安を示したものです。実際は予測よりも大きな揺れになることがあります。

— 予測震度用の
活断層モデル
- - - 震源断層モデル

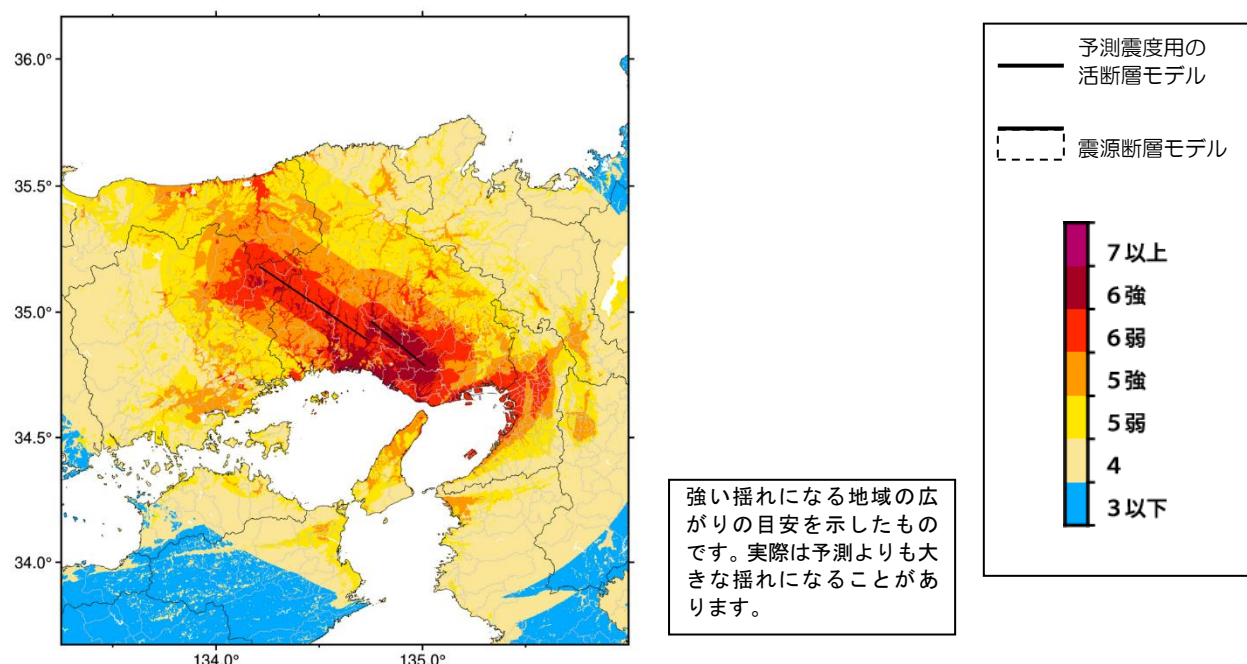


草谷断層



強い揺れになる地域の広がりを目安を示したものです。実際は予測よりも大きな揺れになることがあります。

同時活動（山崎断層帯主部 北西部区間・南東部区間）



解 説

山崎断層帯は、山崎断層帯主部と草谷断層に区分されます。山崎断層帯主部は岡山県東部から兵庫県南東部にかけて分布するほぼ西北西－東南東走向の長さ約 85 km の断層帯で、最新活動時期が異なることから、北西部区間と南東部区間に区分されます。

那岐山断層帯は岡山県東部に分布するほぼ東西走向の長さ約 29 km の右横ずれ成分を伴う北側隆起の断層です。那岐山断層帯全体が一度に活動した場合、その地震の規模はマグニチュード (M) 7.3 程度になる可能性があります。

山崎断層帯主部 北西部区間はほぼ西北西－東南東走向の長さ約 57 km の北東側隆起の上下成分を伴う左横ずれ断層です。山崎断層帯主部 北西部区間全体が一度に活動した場合、その地震の規模は M7.8 程度になる可能性があります。

山崎断層帯主部 南東部区間はほぼ西北西－東南東走向の長さ約 31 km の北東側隆起の上下成分を伴う左横ずれ断層です。山崎断層帯主部 南東部区間全体が一度に活動した場合、その地震の規模は M7.3 程度になる可能性があります。

草谷断層は兵庫県三木市から兵庫県加古川市にかけて分布する東北東－西南西走向の長さ約 13 km の北西側隆起の上下成分を伴う右横ずれ断層です。草谷断層全体が一度に活動した場合、その地震の規模は M6.7 程度になる可能性があります。

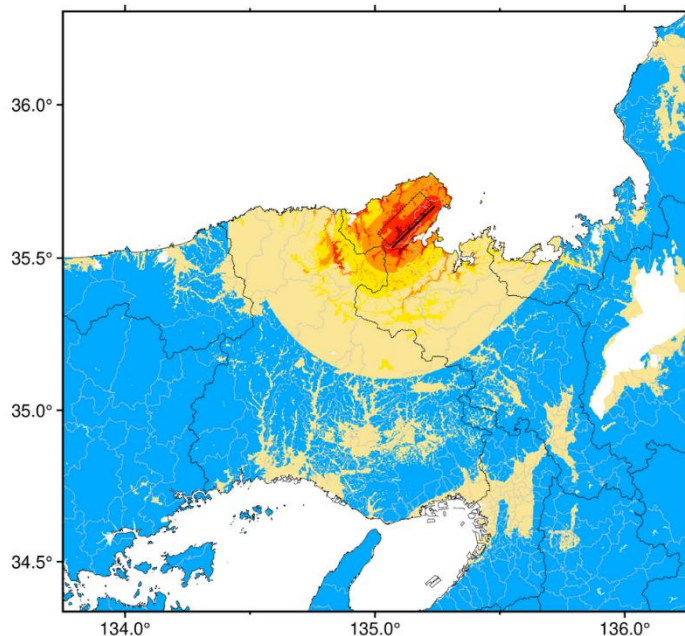
山崎断層帯主部 北西部区間と南東部区間が一度に活動した場合は M8.0 程度の規模の地震になる可能性があります。

前3ページの図は、そのような地震が発生した場合に予測される、活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも1～2ランク程度大きくなる場合があります。特に活断層の近傍などの震度6弱の場所においても、震度6強以上の揺れになることがあります。

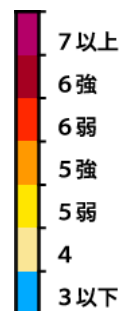
【参考】山田断層帯・郷村断層帯の地震による予測震度分布（簡便法）

山田断層帯 東部区間

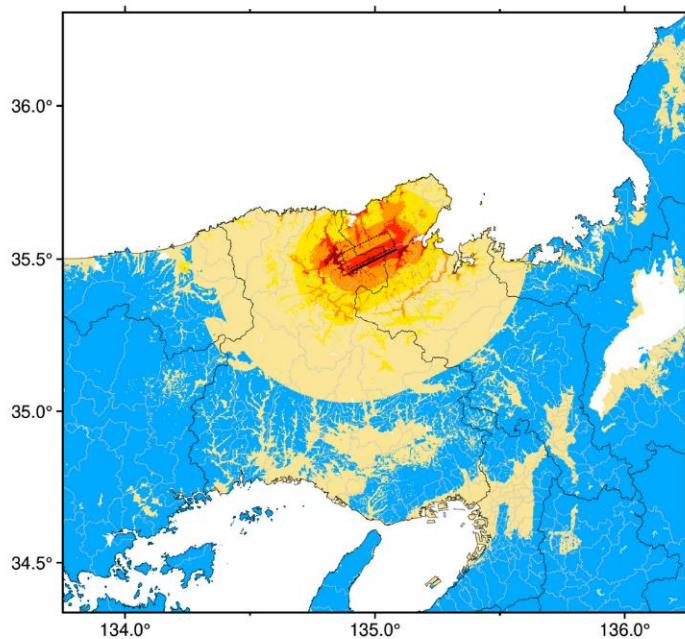


強い揺れになる地域の広がりを目安を示したものです。実際は予測よりも大きな揺れになることがあります。

— 予測震度用の
活断層モデル
- - - 震源断層モデル



山田断層帯 西部区間

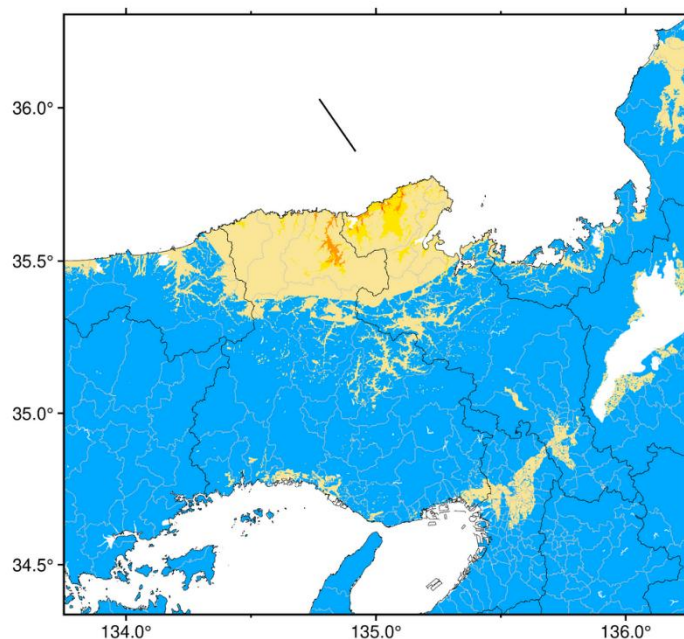


強い揺れになる地域の広がりを目安を示したものです。実際は予測よりも大きな揺れになることがあります。

活断層モデル：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。

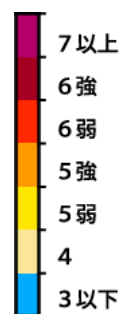
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

郷村断層帯 北部区間

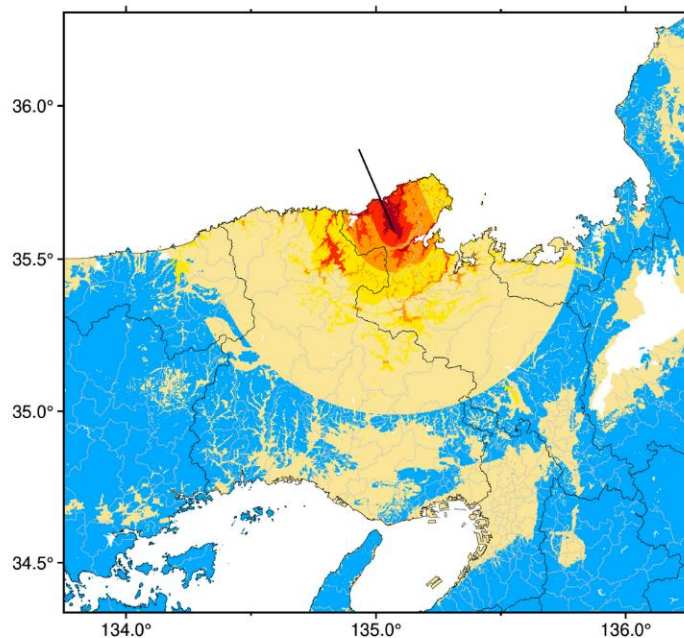


強い揺れになる地域の広がりを目安を示したものです。実際は予測よりも大きな揺れになることがあります。

予測震度用の
活断層モデル
震源断層モデル

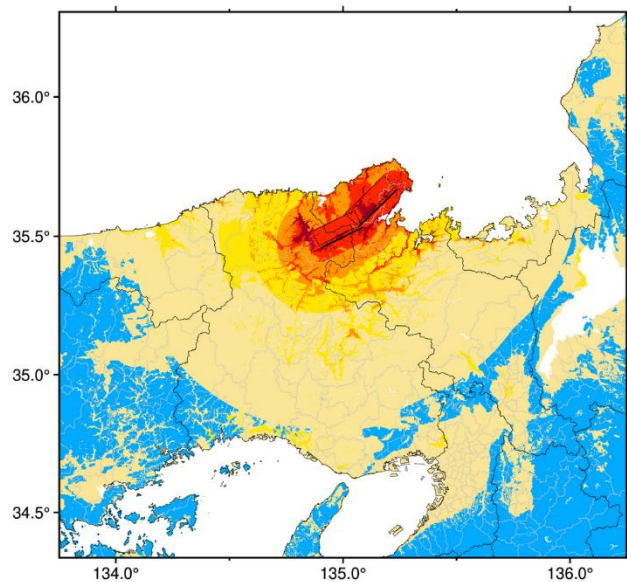


郷村断層帯 南部区間



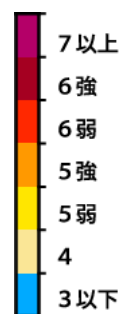
強い揺れになる地域の広がりを目安を示したものです。実際は予測よりも大きな揺れになることがあります。

同時活動（山田断層帯 東部区間・西部区間）

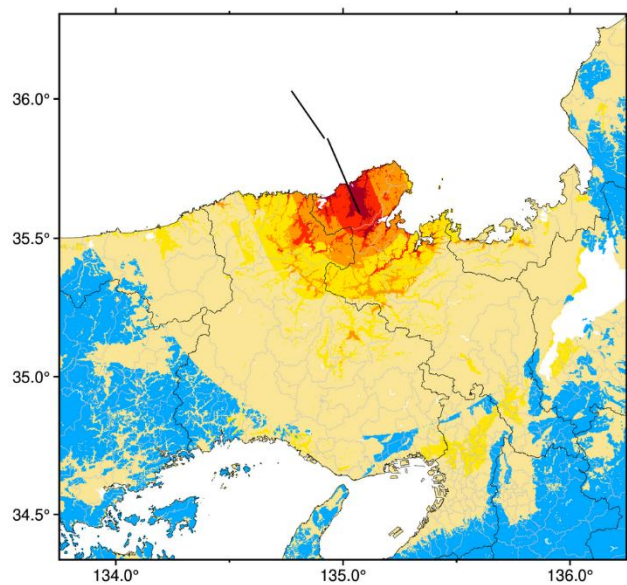


強い揺れになる地域の広がりを目安を示したものです。実際は予測よりも大きな揺れになることがあります。

— 予測震度用の
活断層モデル
- - - 震源断層モデル



同時活動（郷村断層帯 北部区間・南部区間）



強い揺れになる地域の広がりを目安を示したものです。実際は予測よりも大きな揺れになることがあります。

解 説

山田断層帯は京都府北部の丹後半島基部に分布する、東北東－西南西走向で長さ約 38 km の北西側隆起の成分を伴う右横ずれ断層です。郷村断層帯は、丹後半島北西沖合の海域から京都府京丹後市南部まで北北西－南南東方向に延びる活断層帯であり、南西側が相対的に隆起する成分を伴う左横ずれ断層を主体とします。陸上部の長さは約 13 km ですが、海域部を含めた長さは約 56 km です。最新活動時期の違いから、山田断層帯が東部区間と西部区間、郷村断層帯が北部区間と南部区間に区分されます。

山田断層帯 東部区間は長さ約 21 km の北西側隆起の成分を伴う右横ずれ断層です。山田断層帯東部区間全体が一度に活動した場合、その地震の規模はマグニチュード (M) 7.0 程度になる可能性があります。

山田断層帯 西部区間は長さ約 19 km の北西側隆起の成分を伴う右横ずれ断層です。山田断層帯西部区間全体が一度に活動した場合、その地震の規模は M7.0 程度になる可能性があります。

郷村断層帯 北部区間は長さ約 23 km の北東側隆起（横ずれ成分を伴うかは不明）の断層です。郷村断層帯 北部区間全体が一度に活動した場合、その地震の規模は M7.1 程度になる可能性があります。

郷村断層帯 南部区間は長さ約 32 km の南西側隆起の成分を伴う左横ずれ断層です。郷村断層帯南部区間全体が一度に活動した場合、その地震の規模は M7.3 程度になる可能性があります。

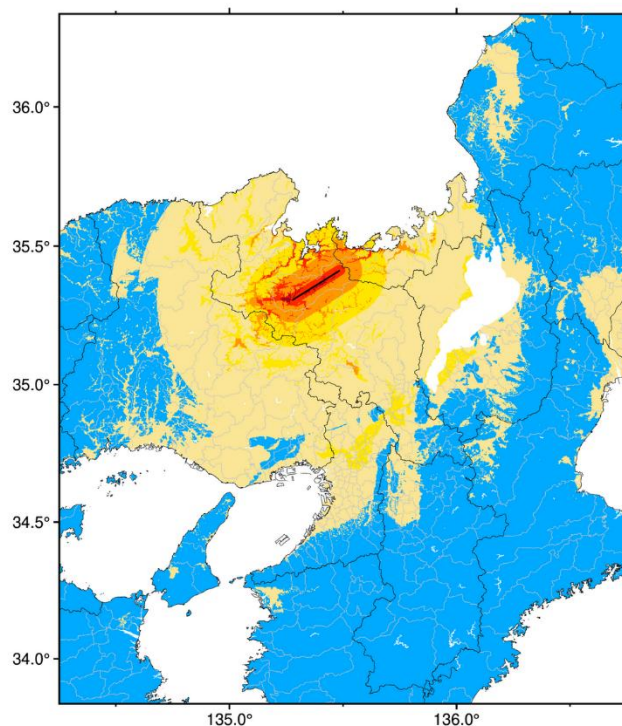
山田断層帯 東部区間と西部区間が一度に活動した場合は M7.5 程度、郷村断層帯 北部区間と南部区間が一度に活動した場合は M7.7 程度の規模の地震になる可能性があります。

前 3 ページの図は、そのような地震が発生した場合に予測される、活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

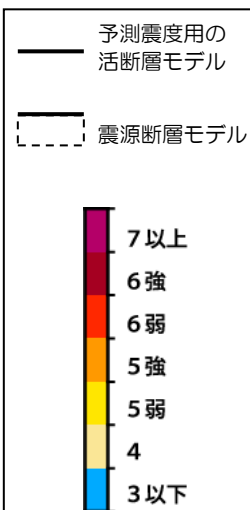
なお、実際の揺れは、予測されたものよりも 1～2 ランク程度大きくなる場合があります。特に活断層の近傍などの震度 6 弱の場所においても、震度 6 強以上の揺れになることがあります。

【参考】上林川断層・三峠断層・京都西山断層帯の地震による予測震度分布（簡便法）

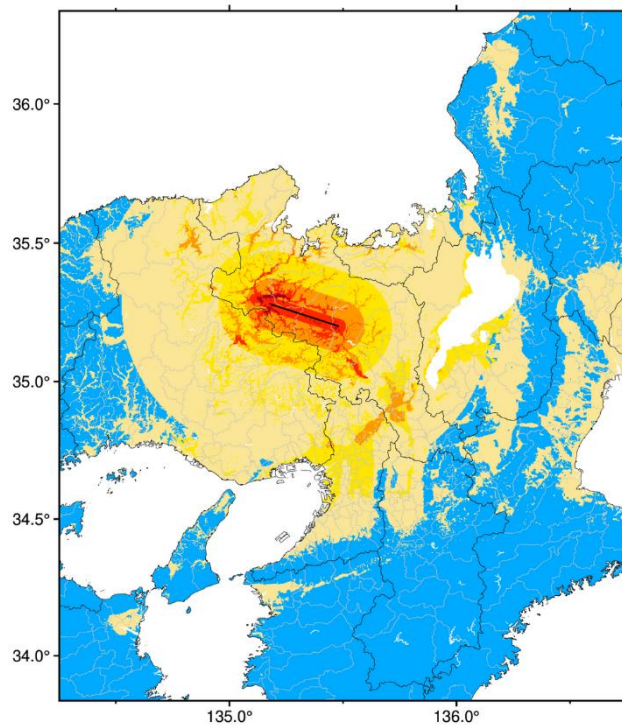
上林川断層



強い揺れになる地域の広がりを目安を示したものです。実際は予測よりも大きな揺れになることがあります。



三峠断層

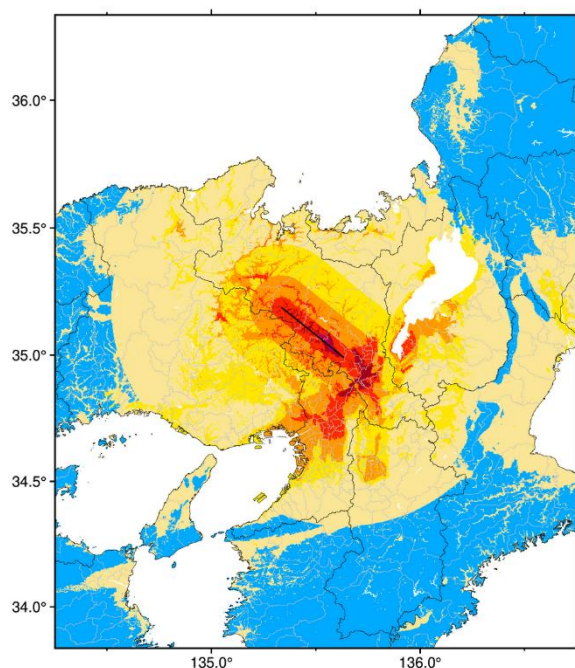


強い揺れになる地域の広がりを目安を示したものです。実際は予測よりも大きな揺れになることがあります。

活断層モデル：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。

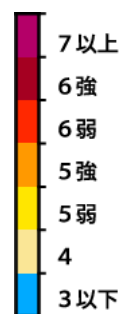
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

京都西山断層帯 北西部区間

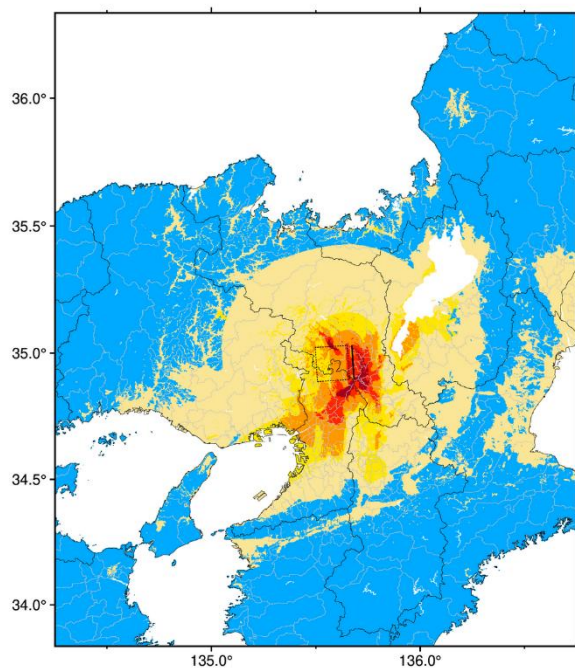


強い揺れになる地域の広がりを目安を示したものです。実際は予測よりも大きな揺れになることがあります。

— 予測震度用の
活断層モデル
- - - 震源断層モデル

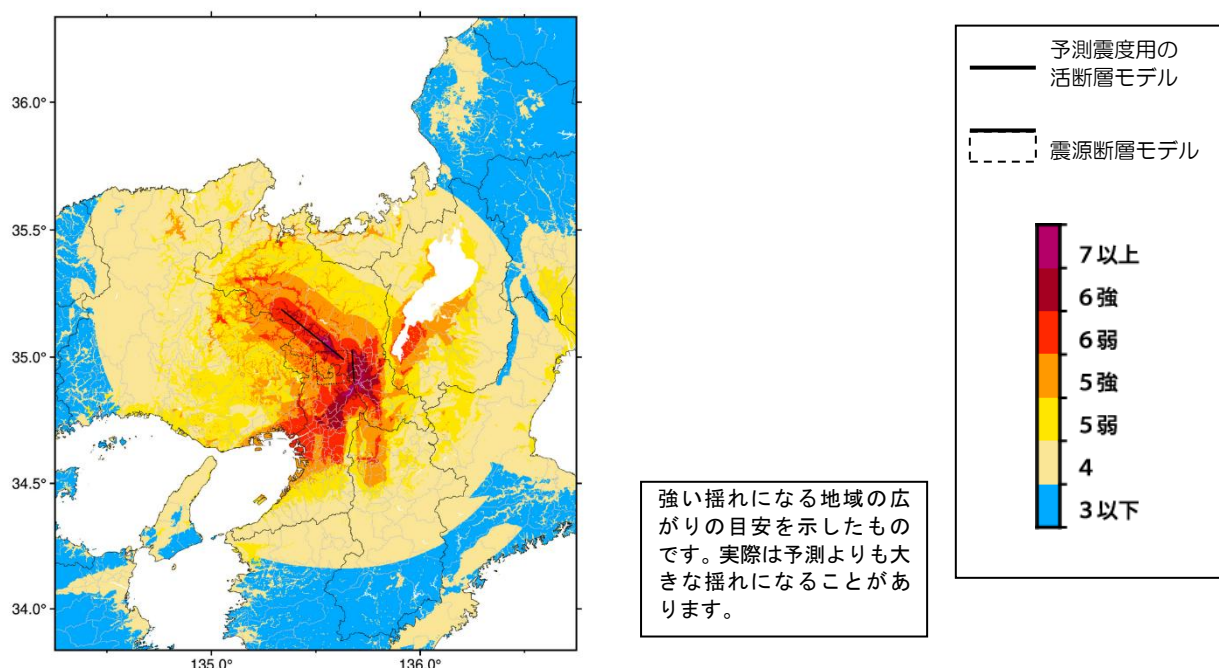


京都西山断層帯 南東部区間



強い揺れになる地域の広がりを目安を示したものです。実際は予測よりも大きな揺れになることがあります。

同時活動（京都西山断層帯 北西部区間・南東部区間）



解 説

上林川断層は、丹波高地の西部から北東に延びる長さ約 22 km の北西側隆起の成分を伴う右横ずれ断層です。上林川断層全体が一度に活動した場合、その地震の規模はマグニチュード (M) 7.1 程度になる可能性があります。

三峠断層は、丹波高地の西部から南東に延びる長さ約 28 km の北東側隆起の成分を伴う左横ずれ断層です。三峠断層全体が一度に活動した場合、その地震の規模は M7.2 程度になる可能性があります。

京都西山断層帯は、京都盆地の西縁から北西に延びる北西－南東ないし南北方向に延びる長さ約 45 km の断層帯です。構成断層の分布形態や活動様式の違いから、北西部区間と南東部区間に区分されます。

京都西山断層帯 北西部区間は長さ約 35 km の北東側隆起の逆断層成分を伴う左横ずれ断層です。北西部区間全体が一度に活動した場合、その地震の規模は M7.4 程度になる可能性があります。

京都西山断層帯 南東部区間は長さ約 14 km の西側隆起の逆断層です。南東部区間全体が一度に活動した場合、その地震の規模は M6.7 程度になる可能性があります。

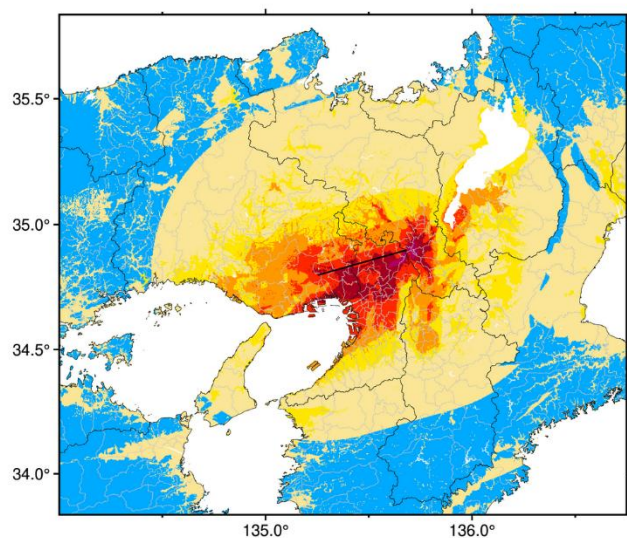
京都西山断層帯 北西部区間と南東部区間が一度に活動した場合は M7.6 程度の規模の地震になる可能性があります。

前 2 ページ及び上の図は、そのような地震が発生した場合に予測される、活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも1～2ランク程度大きくなる場合があります。特に活断層の近傍などの震度6弱の場所においても、震度6強以上の揺れになることがあります。

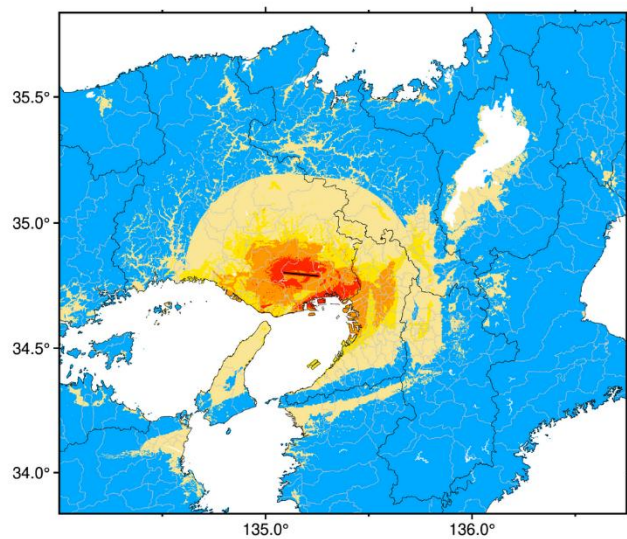
【参考】有馬－高槻断層帯の地震による予測震度分布（簡便法）

有馬－高槻断層帯 東部区間

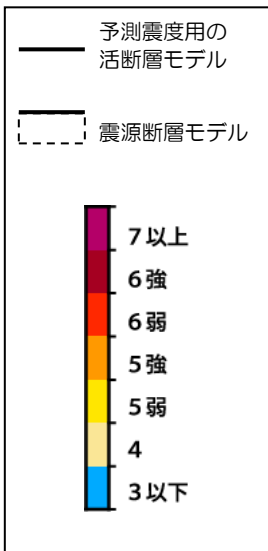


強い揺れになる地域の広がりを目安を示したものです。実際は予測よりも大きな揺れになることがあります。

有馬－高槻断層帯 西部区間



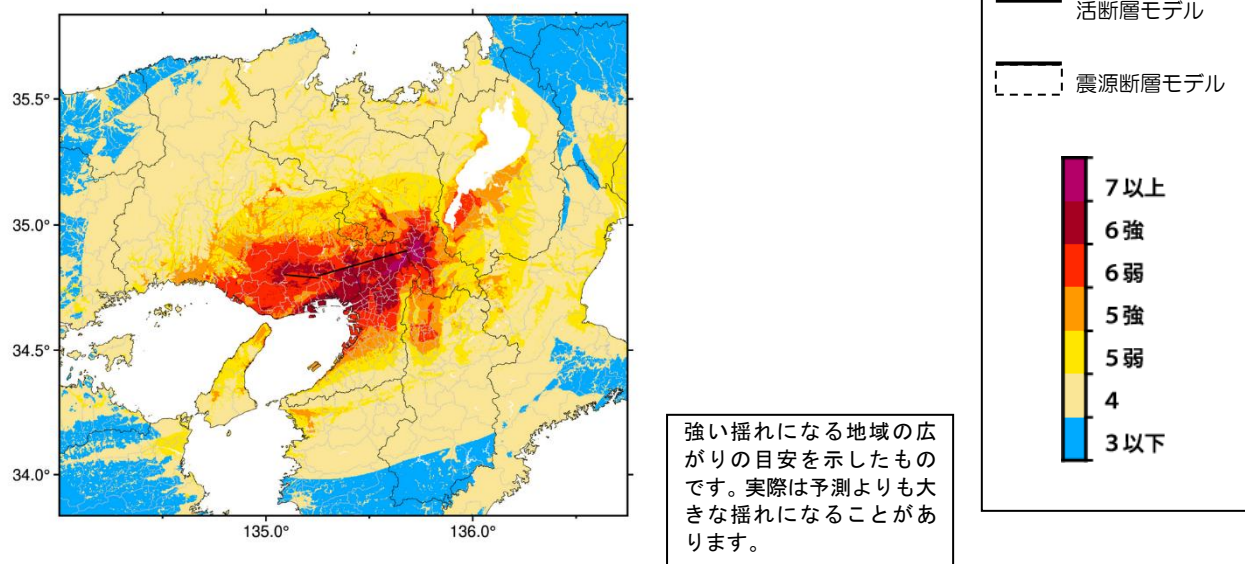
強い揺れになる地域の広がりを目安を示したものです。実際は予測よりも大きな揺れになることがあります。



活断層モデル：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。

震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

同時活動（有馬－高槻断層帯 東部区間・西部区間）



解 説

有馬－高槻断層帯は、神戸市北区淡河町から京都府大山崎町に至る長さ約 55 km の断層帯で、並走、あるいは分岐する多くの断層線から構成されています。構成する活断層の分布形状や変位地形の明瞭さの違いなどに基づき、東部区間、西部区間に区分されます。

東部区間は長さ約 41 km の右横ずれ断層（上下変位を伴い、東部では地溝帯を形成していることが多い）です。東部区間全体が一度に活動した場合、その地震の規模はマグニチュード（M）7.5 程度になる可能性があります。

西部区間は長さ約 16 km の右横ずれ断層です。西部区間全体が一度に活動した場合、その地震の規模は M6.8 程度になる可能性があります。

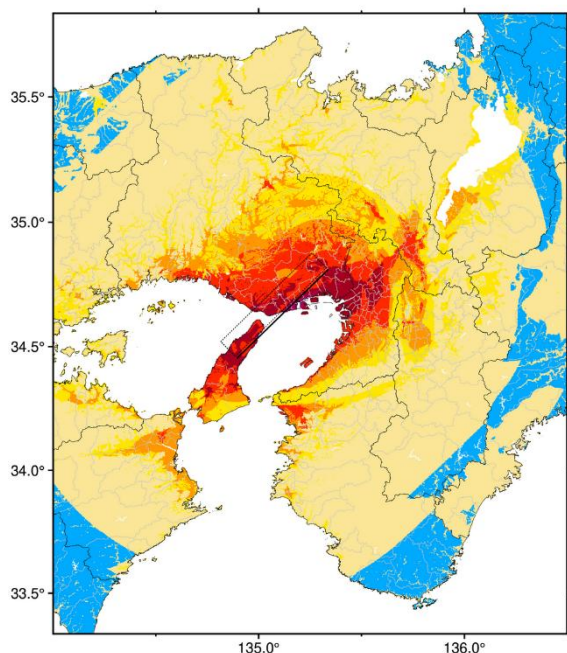
東部区間と西部区間が一度に活動した場合は M7.7 程度の規模の地震になる可能性があります。

前ページ及び上の図は、そのような地震が発生した場合に予測される、活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも 1～2 ランク程度大きくなる場合があります。特に活断層の近傍などの震度 6 弱の場所においても、震度 6 強以上の揺れになることがあります。

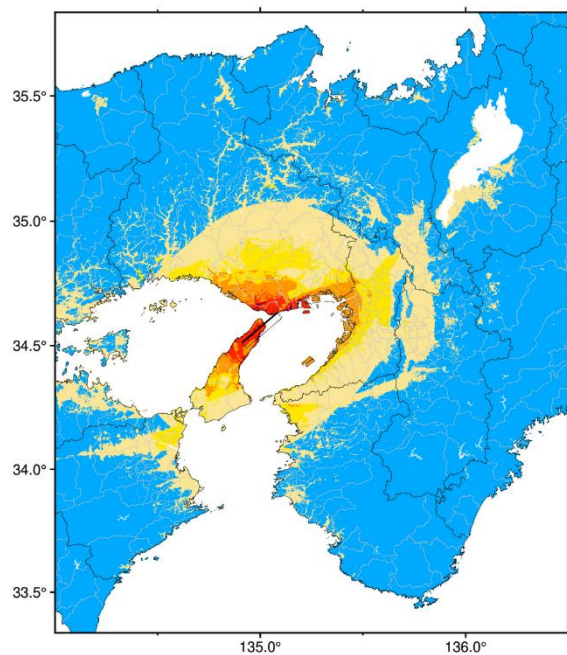
【参考】六甲・淡路島断層帯の地震による予測震度分布（簡便法）

六甲・淡路島断層帯 六甲山地南縁－淡路島東岸区間

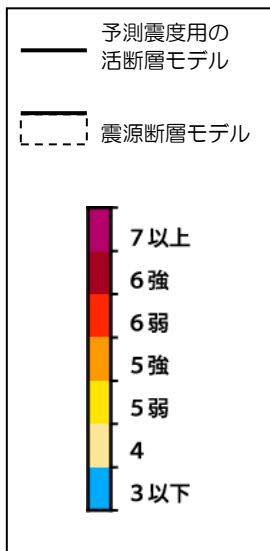


強い揺れになる地域の広がりを目安を示したものです。実際は予測よりも大きな揺れになることがあります。

六甲・淡路島断層帯 淡路島西岸区間



強い揺れになる地域の広がりを目安を示したものです。実際は予測よりも大きな揺れになることがあります。



活断層モデル：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。

震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解 説

六甲・淡路島断層帯は、兵庫県宝塚市から兵庫県神戸市などを経て淡路島北部に至るほぼ北東－南西方向に延びる長さ約 57 km の断層帯です。断層の分布形態や過去の活動時期の違いなどから、六甲山地南縁－淡路島東岸区間と淡路島西岸区間に区分されます。

六甲山地南縁－淡路島東岸区間は長さ約 57 km の北西側隆起の逆断層成分を伴う右横ずれ断層です。六甲山地南縁－淡路島東岸区間全体が一度に活動した場合、その地震の規模はマグニチュード (M) 7.8 程度になる可能性があります。

淡路島西岸区間は長さ約 21 km の南東側隆起の逆断層成分を伴う右横ずれ断層です。淡路島西岸区間全体が一度に活動した場合、その地震の規模は M7.0 程度になる可能性があります。

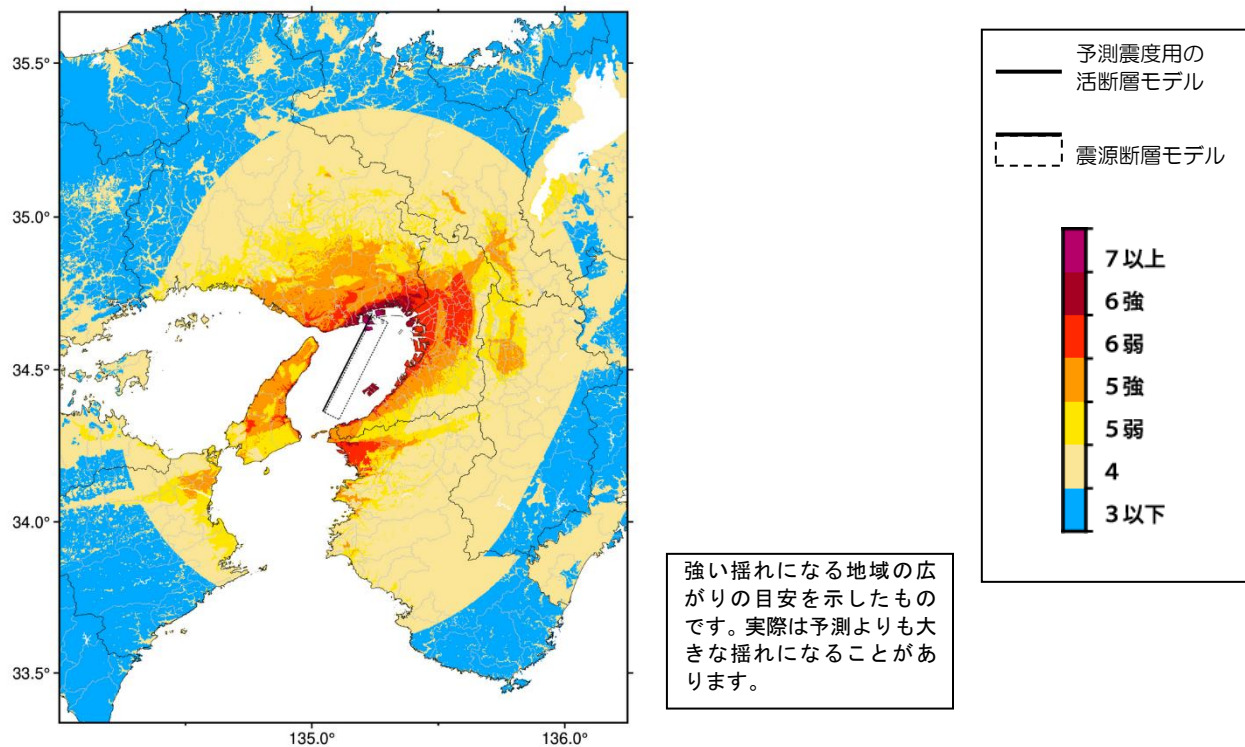
六甲山地南縁－淡路島東岸区間と淡路島西岸区間が一度に活動した場合は M7.8 程度の規模の地震になる可能性があります。

前ページの図は、そのような地震が発生した場合に予測される、活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも 1～2 ランク程度大きくなる場合があります。特に活断層の近傍などの震度 6 弱の場所においても、震度 6 強以上の揺れになることがあります。

【参考】大阪湾断層帯の地震による予測震度分布（簡便法）

大阪湾断層帯



活断層モデル：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。

震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解 説

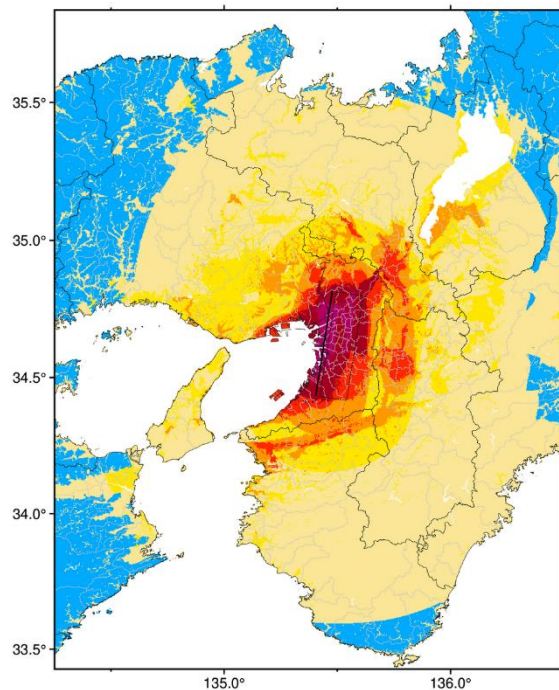
大阪湾断層帯は、神戸市沿岸から大阪湾南部に位置する北北東－南南西走向の長さ約 40 km の北西側隆起の逆断層です。

大阪湾断層帯全体が 1 つの区間として一度に活動した場合、その地震の規模は M7.5 程度になる可能性があります。上の図は、そのような地震が発生した場合に予測される、活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

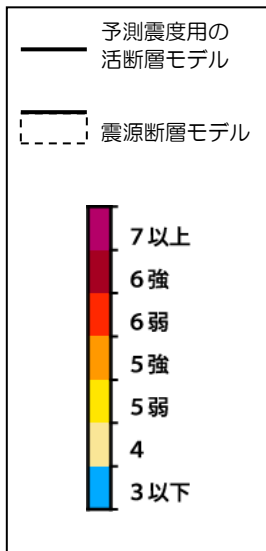
なお、実際の揺れは、予測されたものよりも 1～2 ランク程度大きくなる場合があります。特に活断層の近傍などの震度 6 弱の場所においても、震度 6 強以上の揺れになることがあります。

【参考】上町断層帯の地震による予測震度分布（簡便法）

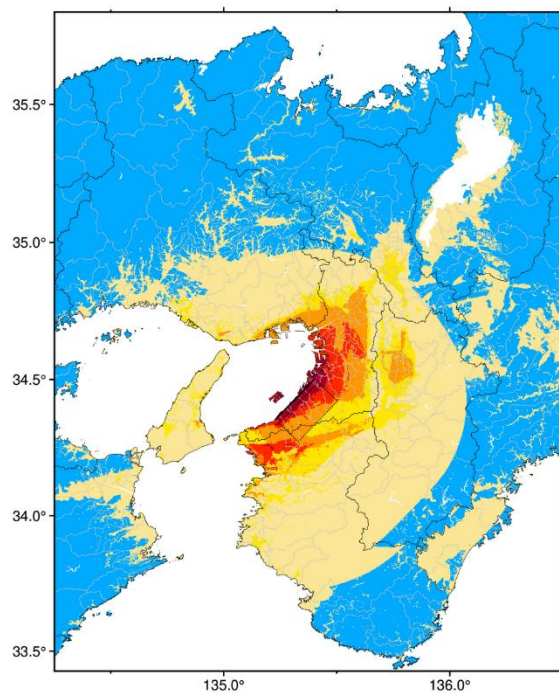
上町断層帯 主部区間



強い揺れになる地域の広がりを目安を示したものです。実際は予測よりも大きな揺れになることがあります。



上町断層帯 沿岸部区間

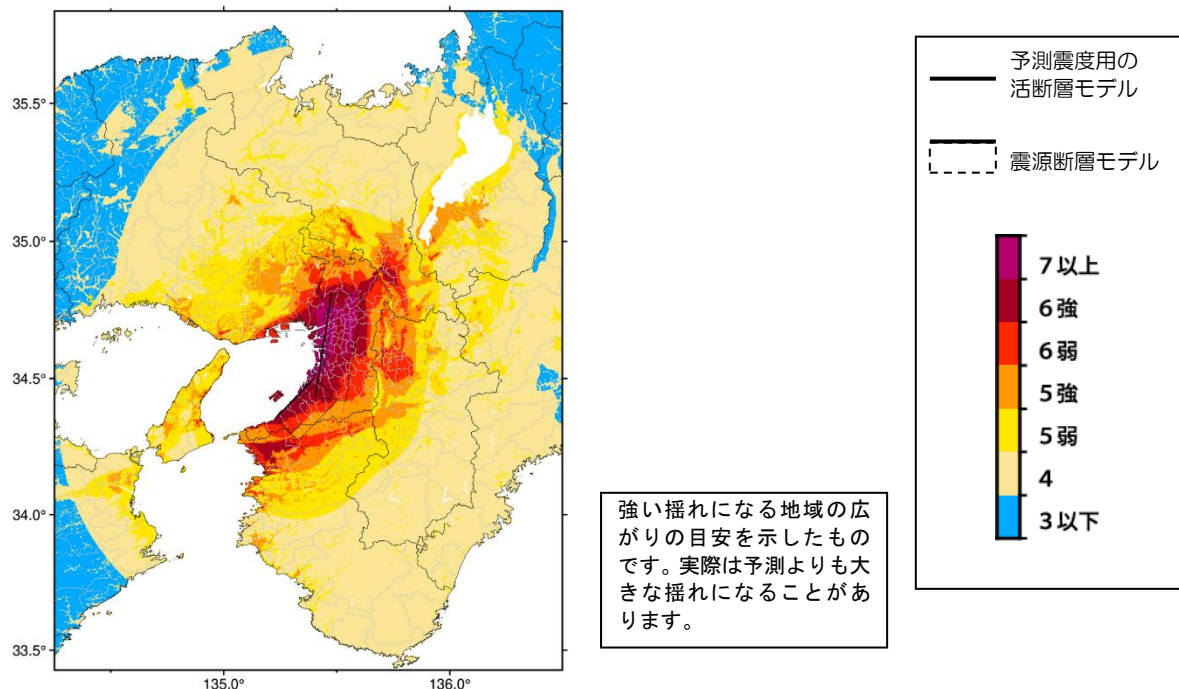


強い揺れになる地域の広がりを目安を示したものです。実際は予測よりも大きな揺れになることがあります。

活断層モデル：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。

震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

同時活動（上町断層帯 主部区間・沿岸部区間）



解 説

上町断層帯は、大阪府豊中市から大阪市、岸和田市を経て阪南市に至る断層帯で、ほぼ南北方向から北東－南西方向に延びる長さ約 56 km の東側隆起の逆断層です。構成する活断層の分布形状、活動時期等の特徴に基づき、主部区間、沿岸部区間に区分されます。

主部区間は長さ約 43 km の東側隆起の逆断層です。主部区間全体が一度に活動した場合、その地震の規模はマグニチュード (M) 7.6 程度になる可能性があります。

沿岸部区間は長さ約 23 km の南東側隆起の逆断層です。沿岸部区間全体が一度に活動した場合、その地震の規模は M7.1 程度になる可能性があります。

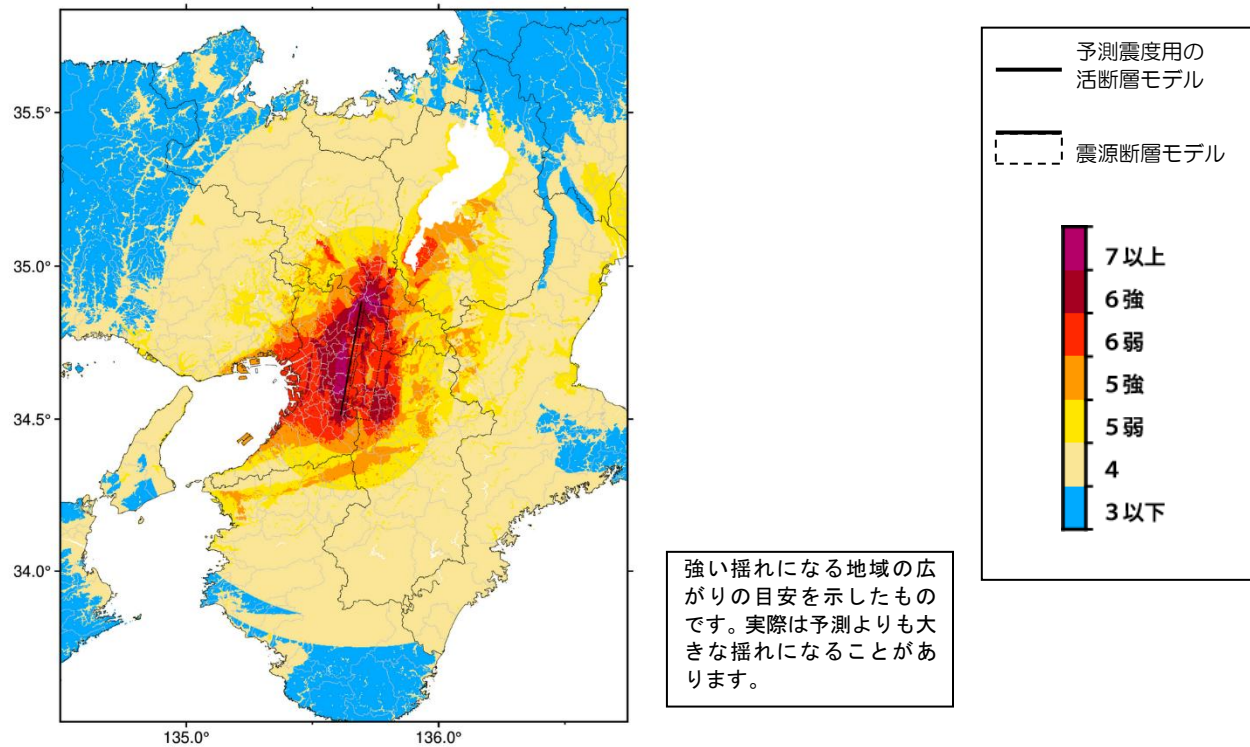
主部区間と沿岸部区間が一度に活動した場合は M7.7 程度の規模の地震になる可能性があります。

前ページ及び上の図は、そのような地震が発生した場合に予測される、活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも 1～2 ランク程度大きくなる場合があります。特に活断層の近傍などの震度 6 弱の場所においても、震度 6 強以上の揺れになることがあります。

【参考】生駒断層帯の地震による予測震度分布（簡便法）

生駒断層帯



活断層モデル：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。

震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解 説

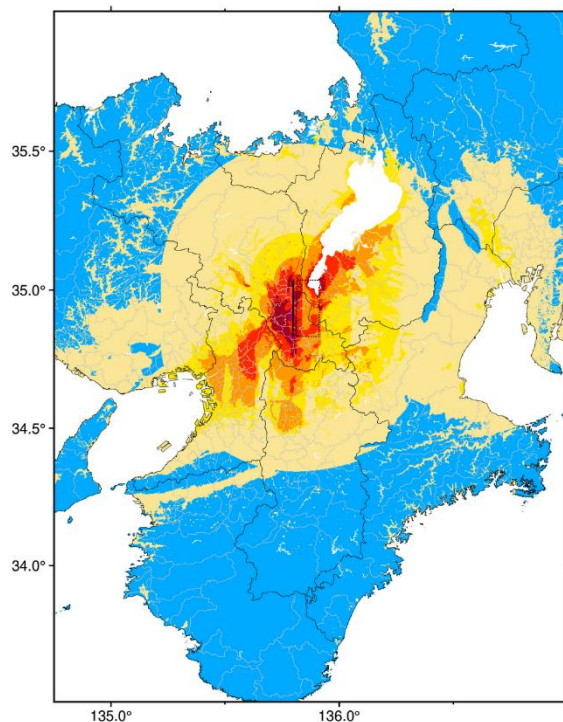
生駒断層帯は、生駒山地とその西の大阪平野との境界付近に位置する長さ約 42 km の東側隆起の逆断層です。

生駒断層帯全体が 1 つの区間として一度に活動した場合、その地震の規模は M7.5 程度になる可能性があります。上の図は、そのような地震が発生した場合に予測される、活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも 1～2 ランク程度大きくなる場合があります。特に活断層の近傍などの震度 6 弱の場所においても、震度 6 強以上の揺れになることがあります。

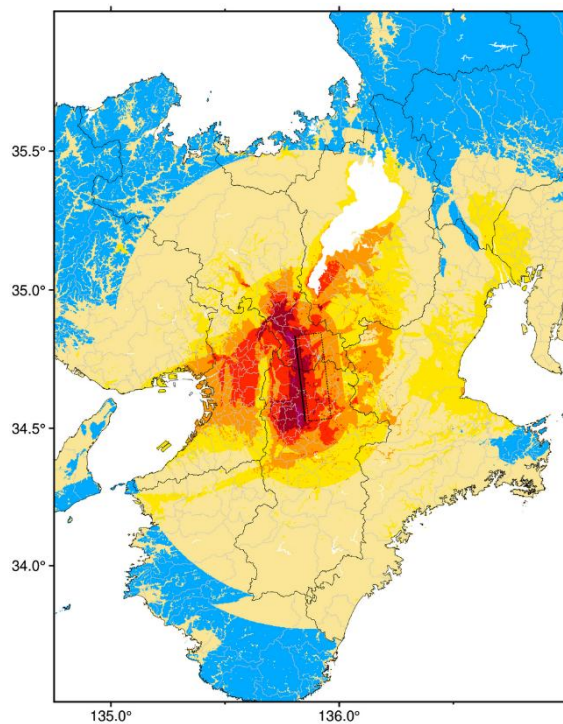
【参考】京都盆地－奈良盆地断層帯の地震による予測震度分布（簡便法）

京都盆地－奈良盆地断層帯 北部区間

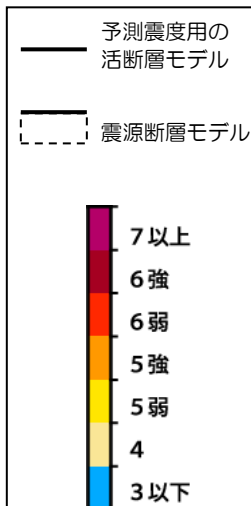


強い揺れになる地域の広がりを目安を示したものです。実際は予測よりも大きな揺れになることがあります。

京都盆地－奈良盆地断層帯 南部区間



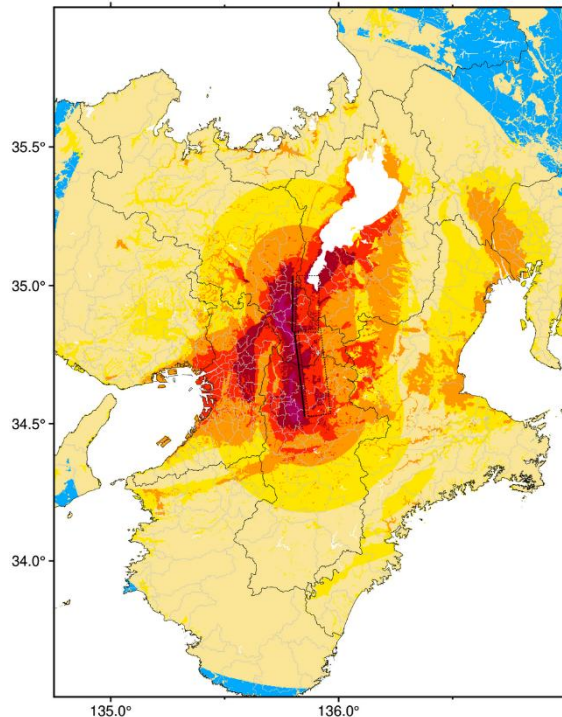
強い揺れになる地域の広がりを目安を示したものです。実際は予測よりも大きな揺れになることがあります。



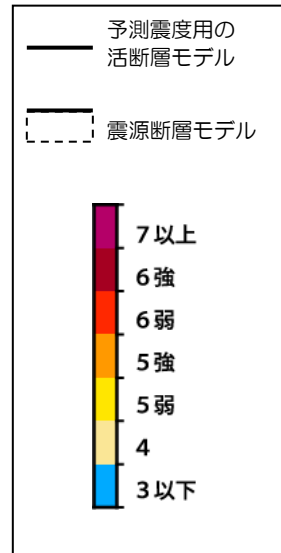
活断層モデル：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。

震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

同時活動（京都盆地－奈良盆地断層帯 北部区間・南部区間）



強い揺れになる地域の広がりを目安を示したものです。実際は予測よりも大きな揺れになることがあります。



解 説

京都盆地－奈良盆地断層帯は、京都盆地から山科盆地、奈良盆地の東縁にかけて、全体としてほぼ南北方向に延びる長さ約 57 km の東側隆起の逆断層です。基盤岩の高まりが地表に露出している地域を境に、北部区間、南部区間に区分されます。

北部区間は長さ約 23 km の東側隆起の逆断層です。北部区間全体が一度に活動した場合、その地震の規模はマグニチュード (M) 7.1 程度になる可能性があります。

南部区間は長さ約 35 km の東側隆起の逆断層です。南部区間全体が一度に活動した場合、その地震の規模は M7.4 程度になる可能性があります。

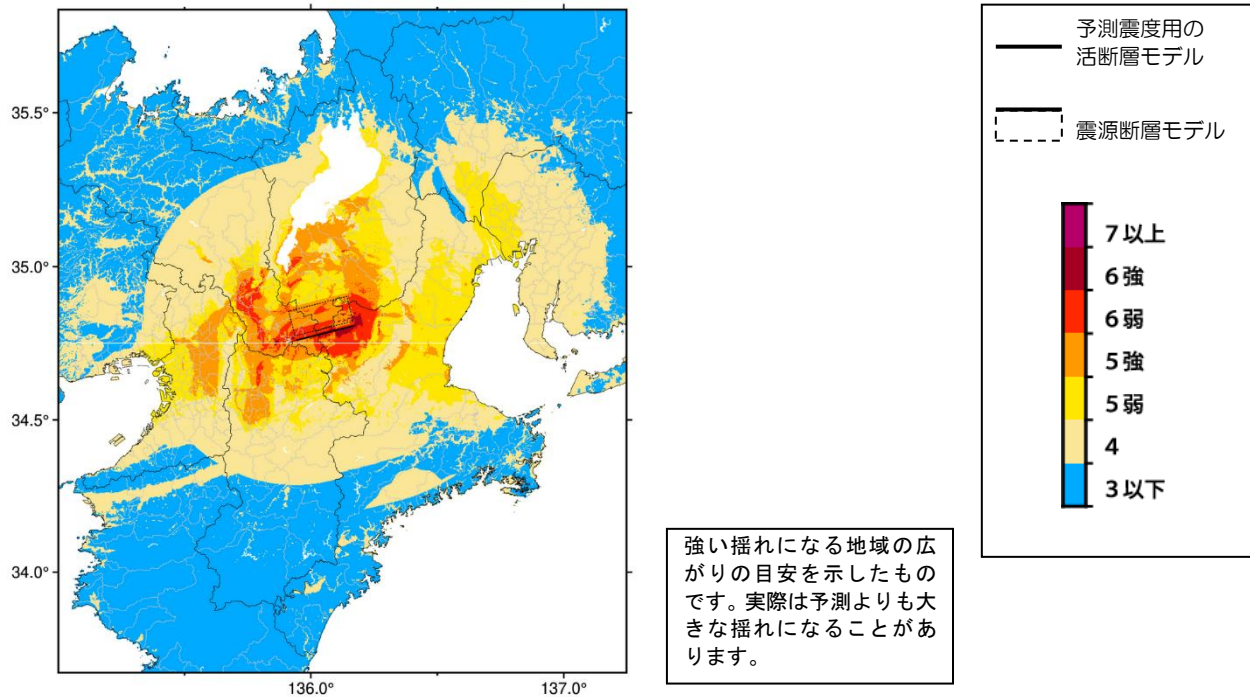
北部区間と南部区間が一度に活動した場合は M7.8 程度の規模の地震になる可能性があります。

前ページ及び上の図は、そのような地震が発生した場合に予測される、活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも 1～2 ランク程度大きくなる場合があります。特に活断層の近傍などの震度 6 弱の場所においても、震度 6 強以上の揺れになることがあります。

【参考】木津川断層帯の地震による予測震度分布（簡便法）

木津川断層帯



活断層モデル：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。

震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解 説

木津川断層帯は、三重県西部から京都府南東部に分布するほぼ東北東－西南西走向の長さ約 22 km の北側隆起の逆断層で、右横ずれ成分を伴います。

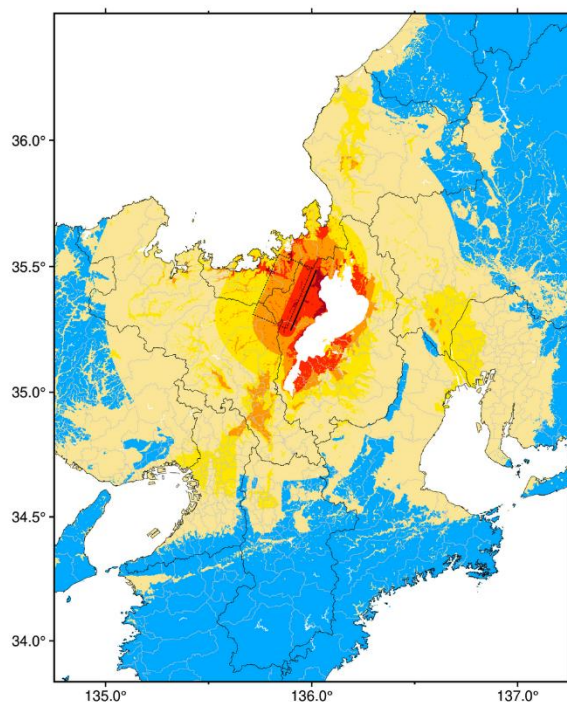
木津川断層帯全体が 1 つの区間として一度に活動した場合、その地震の規模はマグニチュード (M) 7.1 程度になる可能性があります。

上の図は、そのような地震が発生した場合に予測される、活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも 1～2 ランク程度大きくなる場合があります。特に活断層の近傍などの震度 6 弱の場所においても、震度 6 強以上の揺れになることがあります。

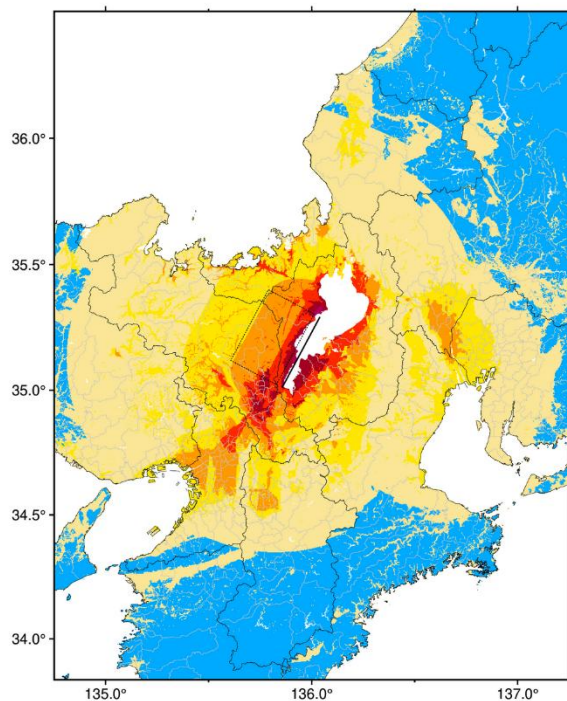
【参考】琵琶湖西岸断層帯の地震による予測震度分布（簡便法）

琵琶湖西岸断層帯 北部区間

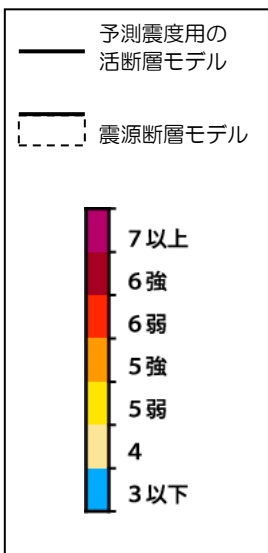


強い揺れになる地域の広がりを目安を示したものです。実際は予測よりも大きな揺れになることがあります。

琵琶湖西岸断層帯 南部区間



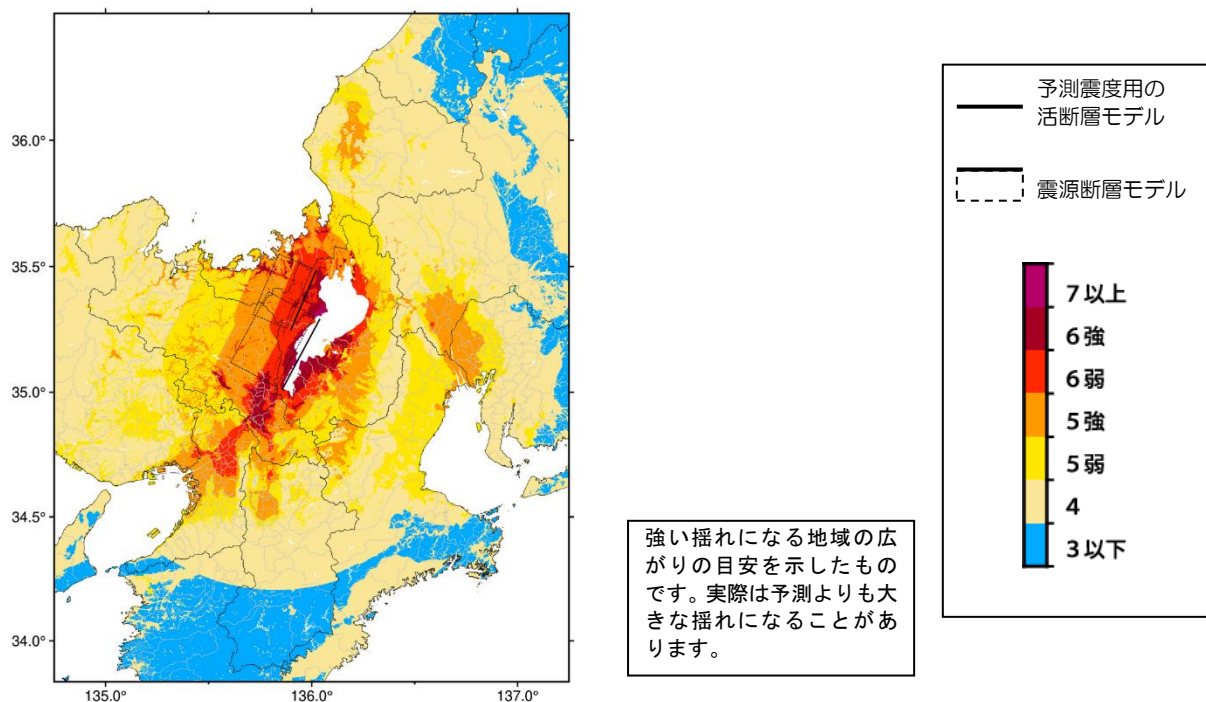
強い揺れになる地域の広がりを目安を示したものです。実際は予測よりも大きな揺れになることがあります。



活断層モデル：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。

震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

同時活動（琵琶湖西岸断層帯 北部区間・南部区間）



解 説

琵琶湖西岸断層帯は、滋賀県高島市マキノ町石庭から大津市三井寺町付近に至る北北東－南南西走向で長さ約 55 km の西側隆起の逆断層です。過去の活動時期の違いから、北部区間、南部区間に区分されます。

北部区間は長さ約 29 km の西側隆起の逆断層です。北部区間全体が一度に活動した場合、その地震の規模はマグニチュード (M) 7.3 程度になる可能性があります。

南部区間は長さ約 35 km の西側隆起の逆断層です。南部区間全体が一度に活動した場合、その地震の規模は M7.4 程度になる可能性があります。

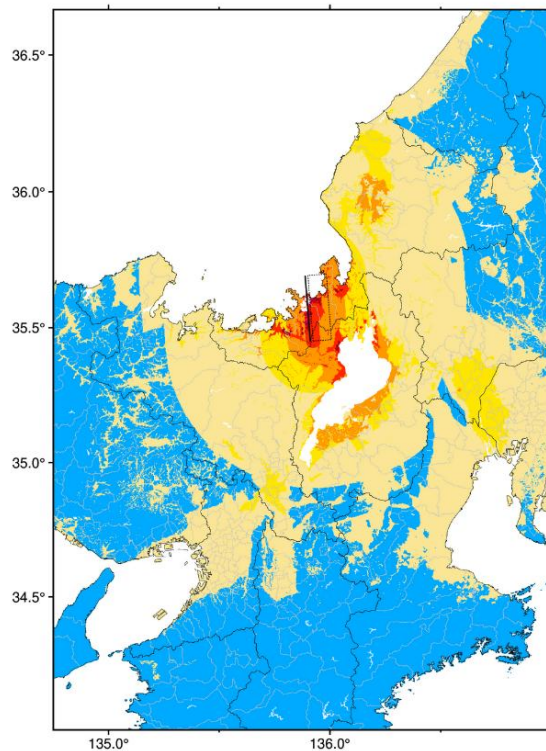
北部区間と南部区間が一度に活動した場合は M7.7 程度の規模の地震になる可能性があります。

前ページ及び上の図は、そのような地震が発生した場合に予測される、活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

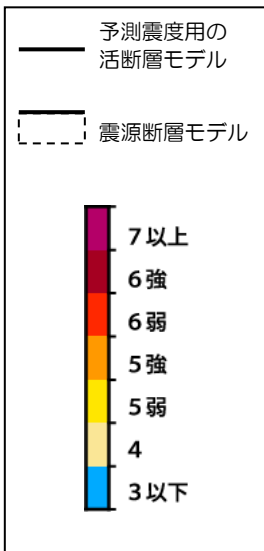
なお、実際の揺れは、予測されたものよりも 1～2 ランク程度大きくなる場合があります。特に活断層の近傍などの震度 6 弱の場所においても、震度 6 強以上の揺れになることがあります。

【参考】三方断層帯・花折断層帯の地震による予測震度分布（簡便法）

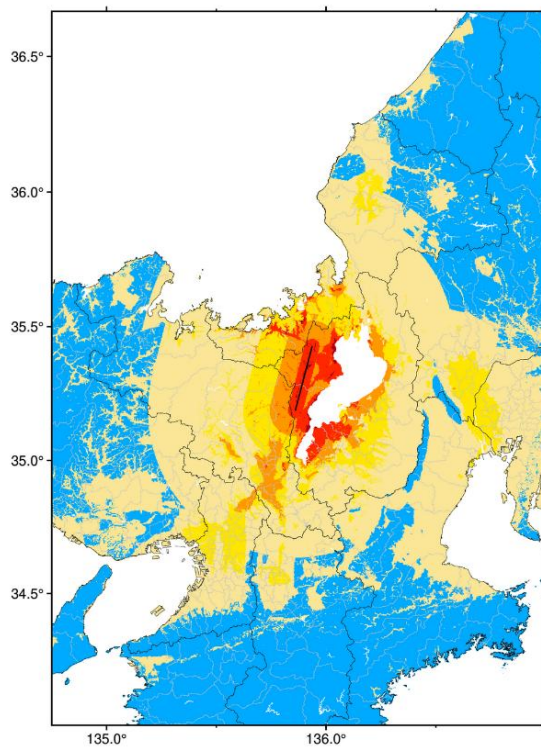
三方断層帯



強い揺れになる地域の広がりを目安を示したものです。実際は予測よりも大きな揺れになることがあります。



花折断層帯 北部区間

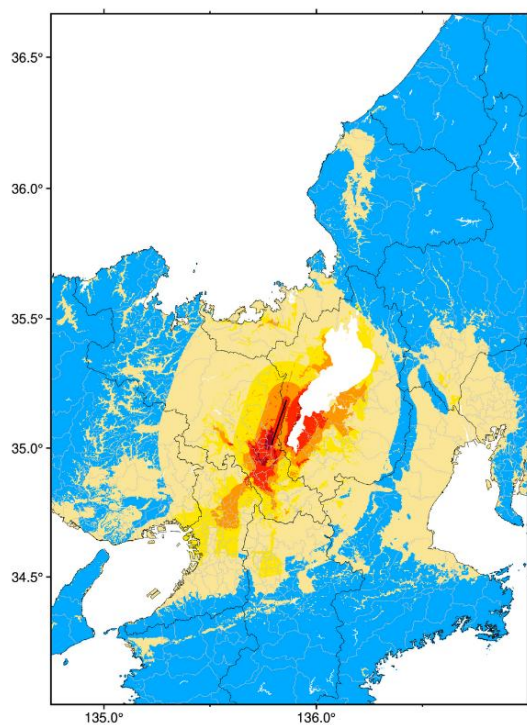


強い揺れになる地域の広がりを目安を示したものです。実際は予測よりも大きな揺れになることがあります。

活断層モデル：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。

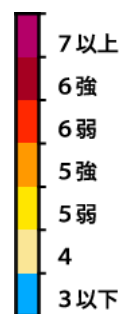
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

花折断層帯 南部区間

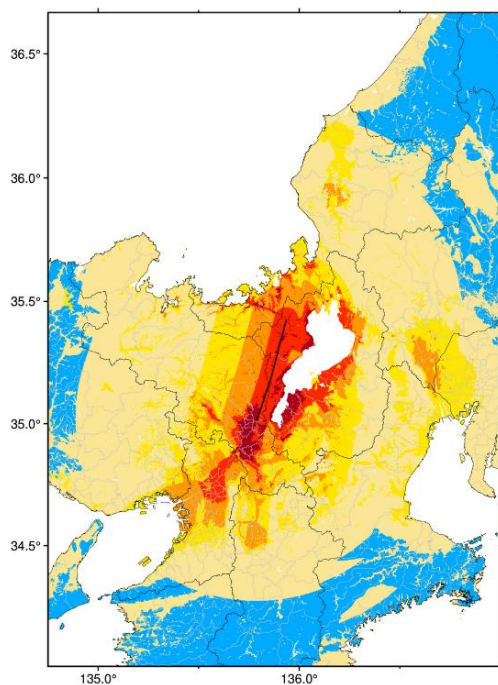


強い揺れになる地域の広がりを目安を示したものです。実際は予測よりも大きな揺れになることがあります。

— 予測震度用の
活断層モデル
- - - 震源断層モデル



同時活動（花折断層帯 北部区間・南部区間）



強い揺れになる地域の広がりを目安を示したものです。実際は予測よりも大きな揺れになることがあります。

解 説

三方断層帯は若狭湾から福井県南部まで延びるほぼ南北走向の断層帯で、花折断層帯は滋賀県北部から京都盆地北東部に至る北北東－南南西走向で長さ約 48 km の断層帯です。過去の活動時期の違いから、花折断層帯は、北部区間、南部区間に区分されます。

三方断層帯は長さ約 27 km の東側隆起の逆断層です。三方断層帯全体が一度に活動した場合、その地震の規模はマグニチュード (M) 7.2 程度になる可能性があります。

花折断層帯 北部区間は長さ約 28 km の右横ずれ断層です。北部区間全体が一度に活動した場合、その地震の規模は M7.2 程度になる可能性があります。

花折断層帯 南部区間は長さ約 20 km の東側隆起の上下成分を伴う右横ずれ断層です。南部区間全体が一度に活動した場合、その地震の規模は M7.0 程度になる可能性があります。

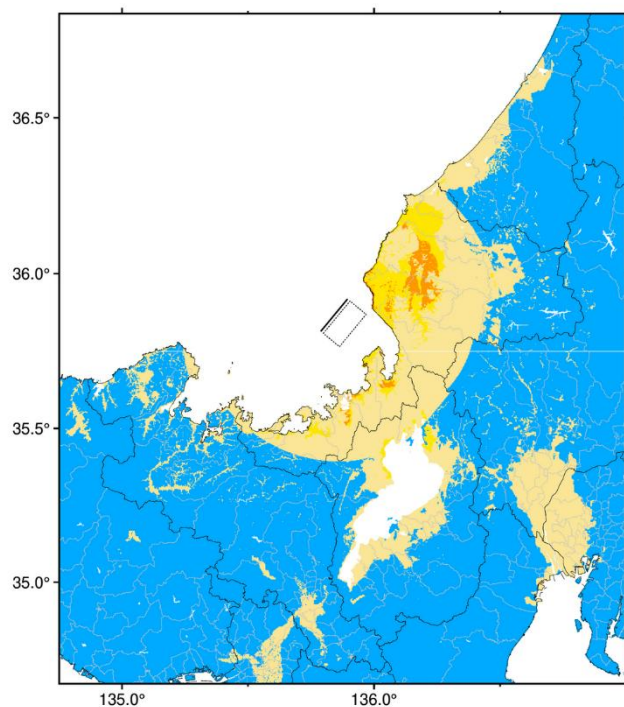
花折断層帯 北部区間と南部区間が一度に活動した場合は M7.6 程度の規模の地震になる可能性があります。

前 2 ページの図は、そのような地震が発生した場合に予測される、活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも 1～2 ランク程度大きくなる場合があります。特に活断層の近傍などの震度 6 弱の場所においても、震度 6 強以上の揺れになることがあります。

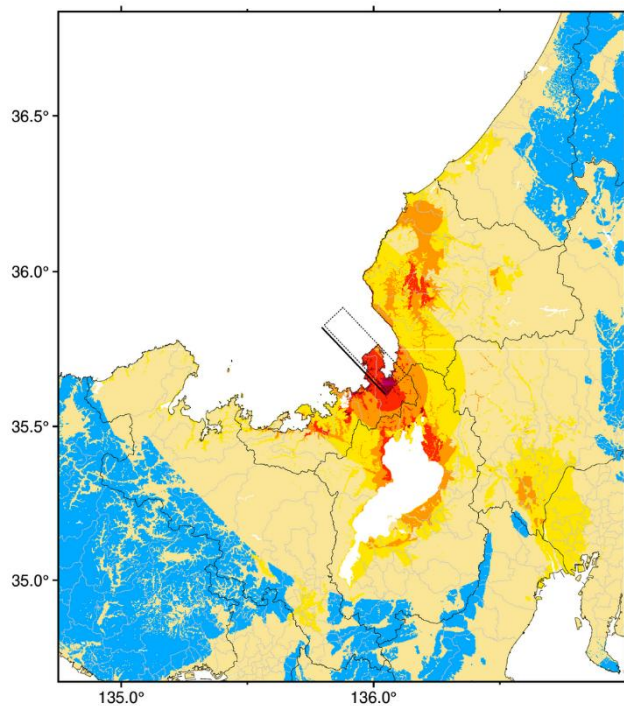
【参考】野坂断層帯の地震による予測震度分布（簡便法）

野坂断層帯 北部区間



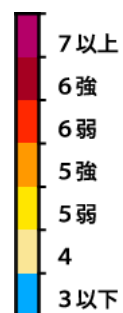
強い揺れになる地域の広がりを目安を示したものです。実際は予測よりも大きな揺れになることがあります。

野坂断層帯 南部区間



強い揺れになる地域の広がりを目安を示したものです。実際は予測よりも大きな揺れになることがあります。

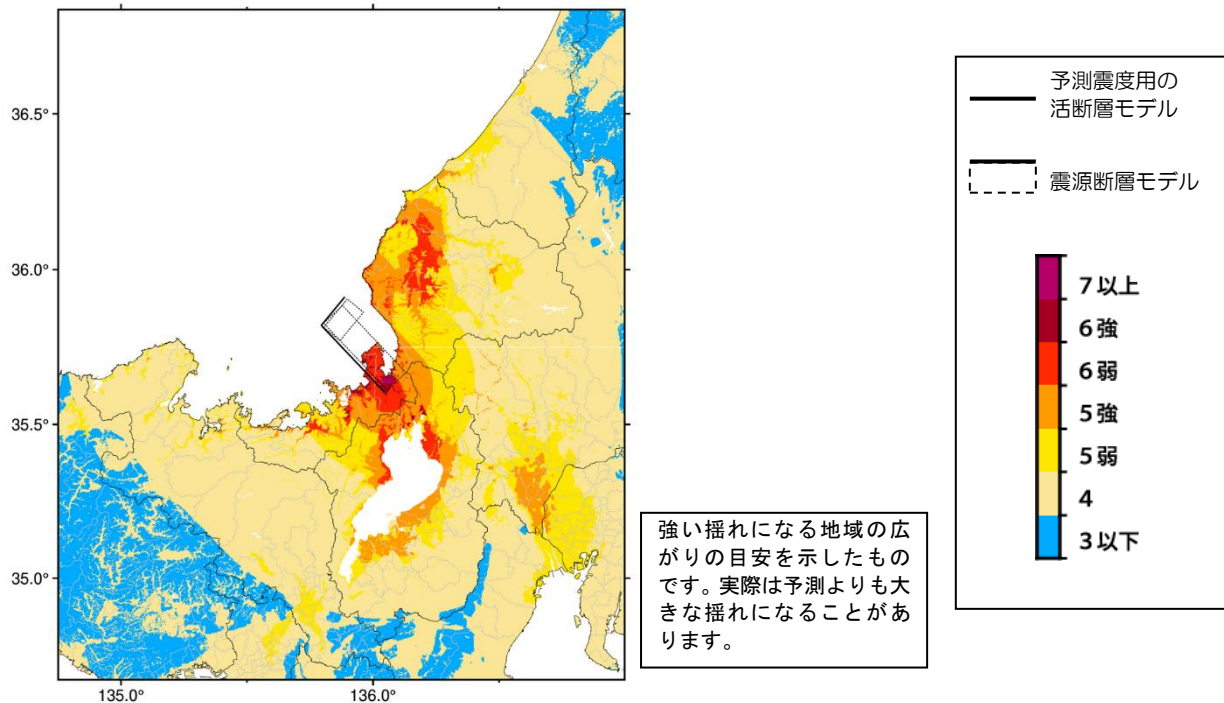
予測震度用の
活断層モデル
震源断層モデル



活断層モデル：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。

震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

同時活動（野坂断層帯 北部区間・南部区間）



解 説

野坂断層帯は、若狭湾から福井県三方郡美浜町を経て敦賀市長谷に至る断層帯で、若狭湾内にある屈曲点において走向がほぼ直角に変化します。断層に沿った全体の長さは約 46 km と推定され、屈曲点よりも北では北東－南西方向に、屈曲点よりも南では北西－南東方向に延びています。構成断層の分布形態や活動様式の違いから、北部区間、南部区間に区分されます。

北部区間は長さ約 13 km の右横ずれ、かつ南東側隆起の逆断層です。北部区間全体が一度に活動した場合、その地震の規模はマグニチュード (M) 6.7 程度になる可能性があります。

南部区間は長さ約 33 km の北東側隆起を伴う左横ずれ断層です。南部区間全体が一度に活動した場合、その地震の規模は M7.4 程度になる可能性があります。

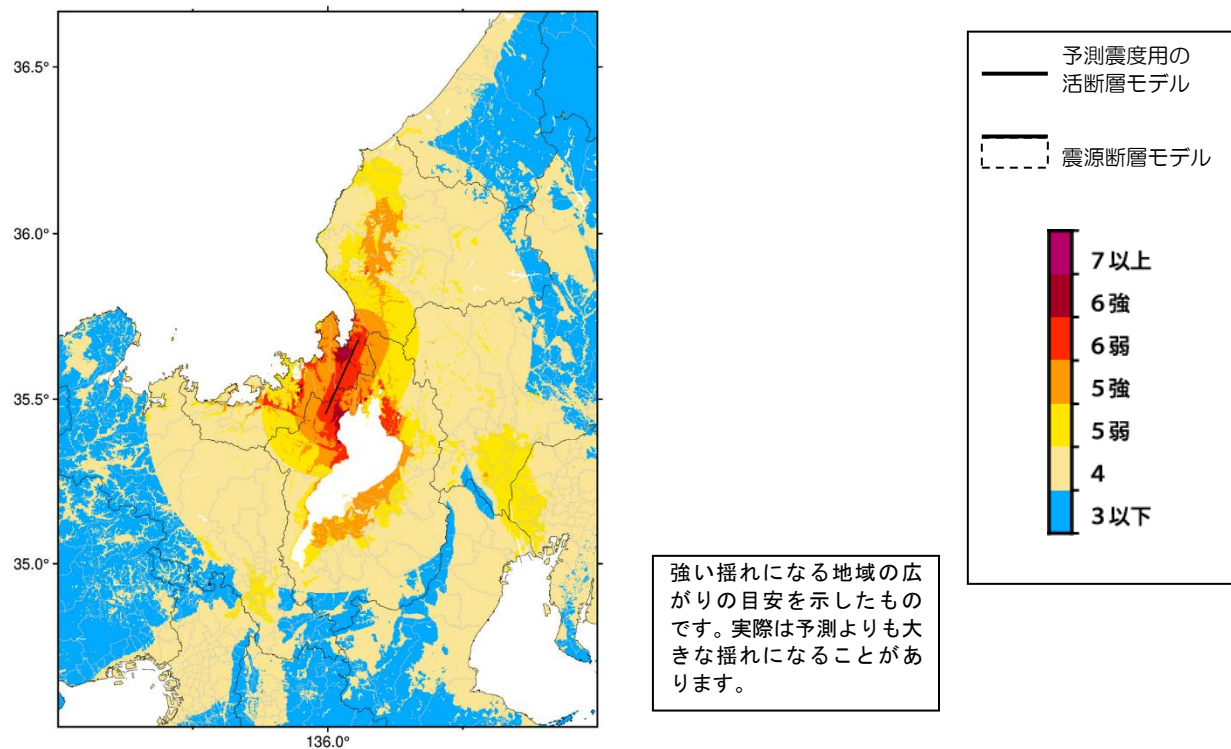
北部区間と南部区間が一度に活動した場合は M7.6 程度の規模の地震になる可能性があります。

前ページ及び上の図は、そのような地震が発生した場合に予測される、活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも 1～2 ランク程度大きくなる場合があります。特に活断層の近傍などの震度 6 弱の場所においても、震度 6 強以上の揺れになることがあります。

【参考】敦賀断層帯の地震による予測震度分布（簡便法）

敦賀断層帯



活断層モデル：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。

震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解 説

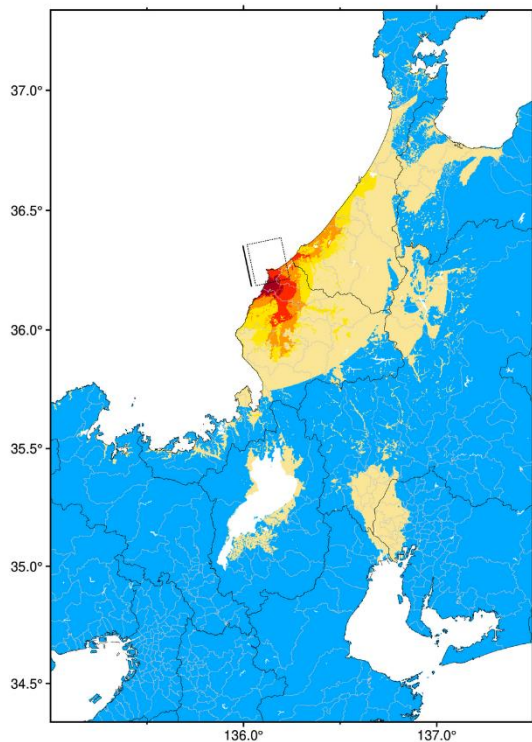
敦賀断層帯は、福井県敦賀市瀬河内から滋賀県高島市今津町深清水に至る、概ね北北東—南南西走向で長さ約 27 km の右横ずれかつ南東側隆起の逆断層です。

敦賀断層帯全体が 1 つの区間として一度に活動した場合、その地震の規模は M7.2 程度になる可能性があります。上の図は、そのような地震が発生した場合に予測される、活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも 1～2 ランク程度大きくなる場合があります。特に活断層の近傍などの震度 6 弱の場所においても、震度 6 強以上の揺れになることがあります。

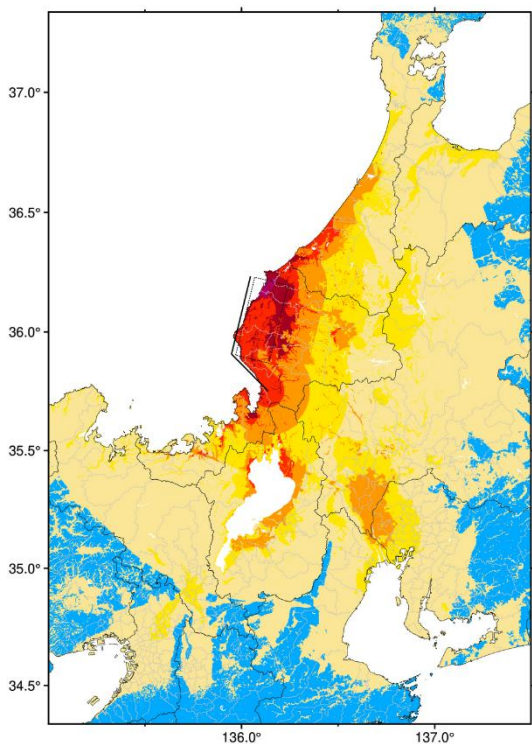
【参考】柳ヶ瀬－関ヶ原断層帯・浦底－柳ヶ瀬山断層帯の地震による予測震度分布（簡便法）

柳ヶ瀬－関ヶ原断層帯 北部区間



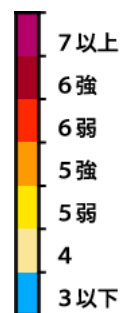
強い揺れになる地域の広がりを目安を示したものです。実際は予測よりも大きな揺れになることがあります。

柳ヶ瀬－関ヶ原断層帯 中部区間



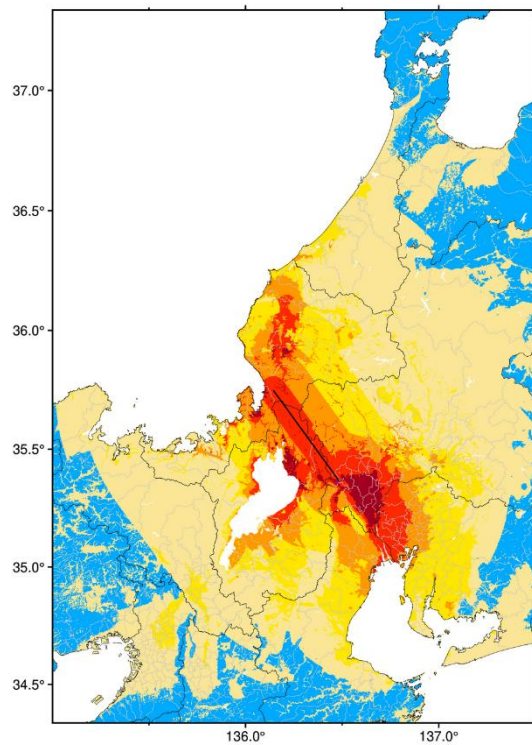
強い揺れになる地域の広がりを目安を示したものです。実際は予測よりも大きな揺れになることがあります。

予測震度用の
活断層モデル
震源断層モデル



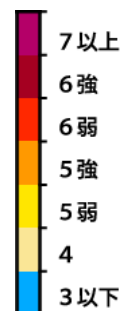
活断層モデル：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

柳ヶ瀬－関ヶ原断層帯 南部区間

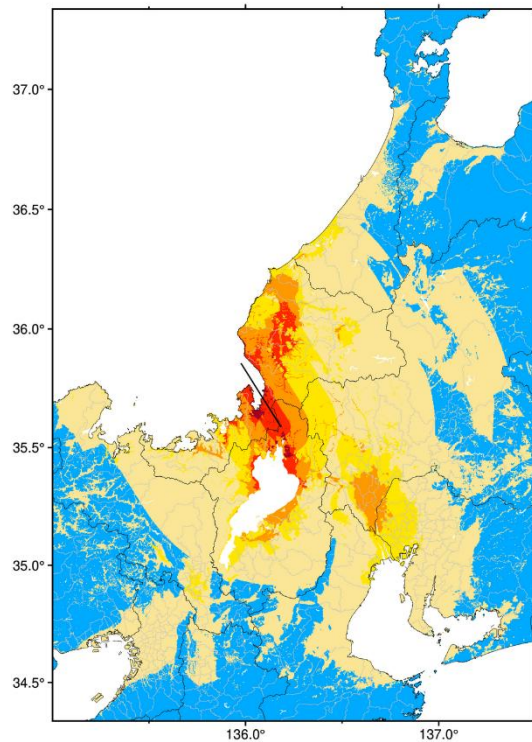


強い揺れになる地域の広
がりの目安を示したもの
です。実際は予測よりも大
きな揺れになることがあ
ります。

— 予測震度用の
活断層モデル
- - - 震源断層モデル

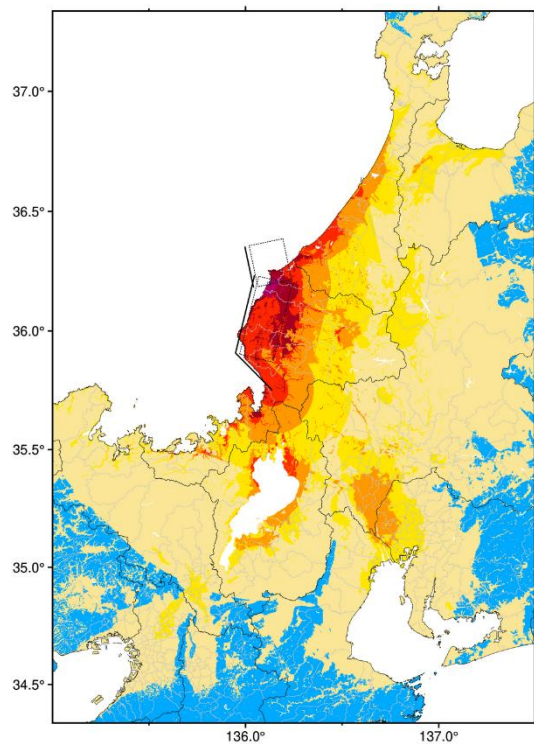


浦底－柳ヶ瀬山断層帯



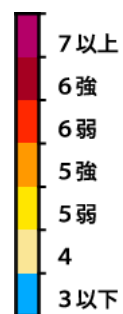
強い揺れになる地域の広
がりの目安を示したもの
です。実際は予測よりも大
きな揺れになることがあ
ります。

同時活動（柳ヶ瀬－関ヶ原断層帯 北部区間・中部区間）

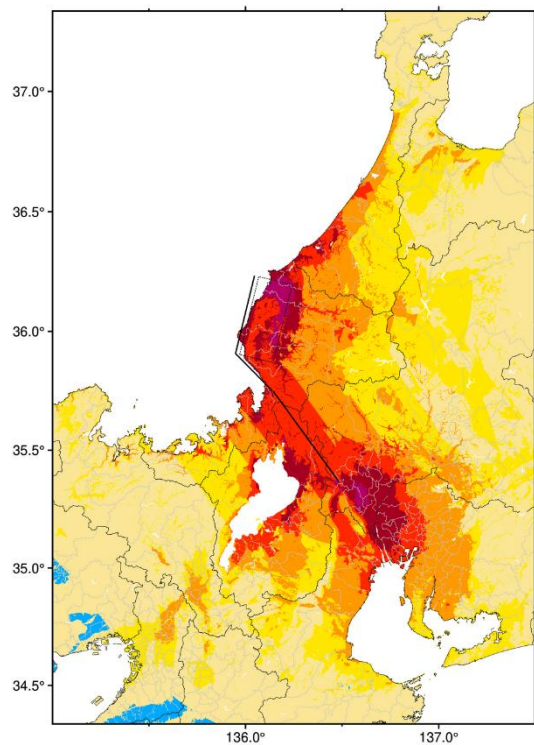


強い揺れになる地域の広
がりの目安を示したもの
です。実際は予測よりも大
きな揺れになることがあ
ります。

— 予測震度用の
活断層モデル
- - - 震源断層モデル

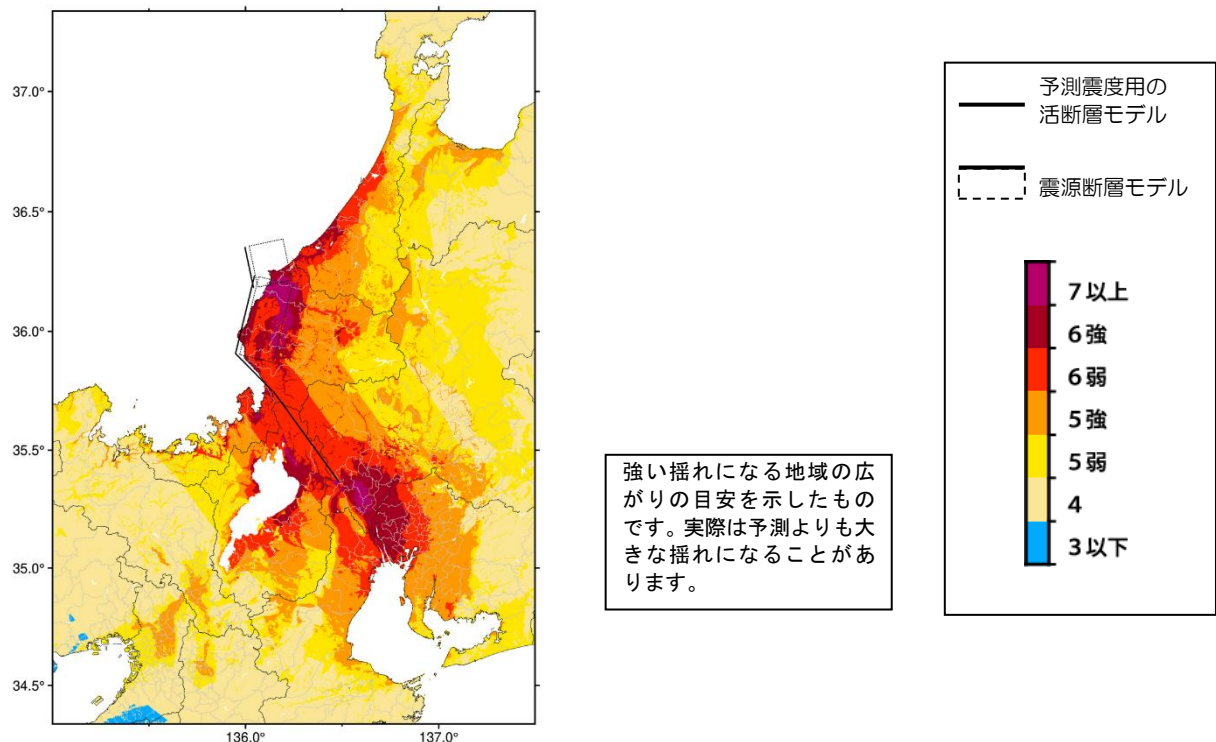


同時活動（柳ヶ瀬－関ヶ原断層帯 中部区間・南部区間）



強い揺れになる地域の広
がりの目安を示したもの
です。実際は予測よりも大
きな揺れになることがあ
ります。

同時活動（柳ヶ瀬－関ヶ原断層帯 北部区間・中部区間・南部区間）



解 説

柳ヶ瀬－関ヶ原断層帯・浦底－柳ヶ瀬山断層帯は、福井県坂井市北西方の日本海沿岸から琵琶湖東岸を経て伊吹山地南縁に至る長さ約 127 km の断層帯です。過去の活動時期、走向及びずれの向きの変化、海岸段丘の分布などから、柳ヶ瀬－関ヶ原断層帯 北部区間、中部区間、南部区間、浦底－柳ヶ瀬山断層帯に区分されます。

柳ヶ瀬－関ヶ原断層帯 北部区間は長さ約 19 km の左横ずれ成分を伴う東側隆起の逆断層です。柳ヶ瀬－関ヶ原断層帯 北部区間全体が一度に活動した場合、その地震の規模はマグニチュード (M) 7.0 程度になる可能性があります。

柳ヶ瀬－関ヶ原断層帯 中部区間は長さ約 62 km で、屈曲点の北側では東側隆起の逆断層、屈曲点の南側では東側隆起成分を伴う左横ずれ断層です。柳ヶ瀬－関ヶ原断層帯 中部区間全体が一度に活動した場合、その地震の規模は M7.8 程度になる可能性があります。

柳ヶ瀬－関ヶ原断層帯 南部区間は長さ約 52 km の左横ずれ断層です。柳ヶ瀬－関ヶ原断層帯 南部区間全体が一度に活動した場合、その地震の規模は M7.7 程度になる可能性があります。

浦底－柳ヶ瀬山断層帯は長さ約 35 km の上下成分を伴う左横ずれ断層です。浦底－柳ヶ瀬山断層帯全体が一度に活動した場合、その地震の規模は M7.4 程度になる可能性があります。

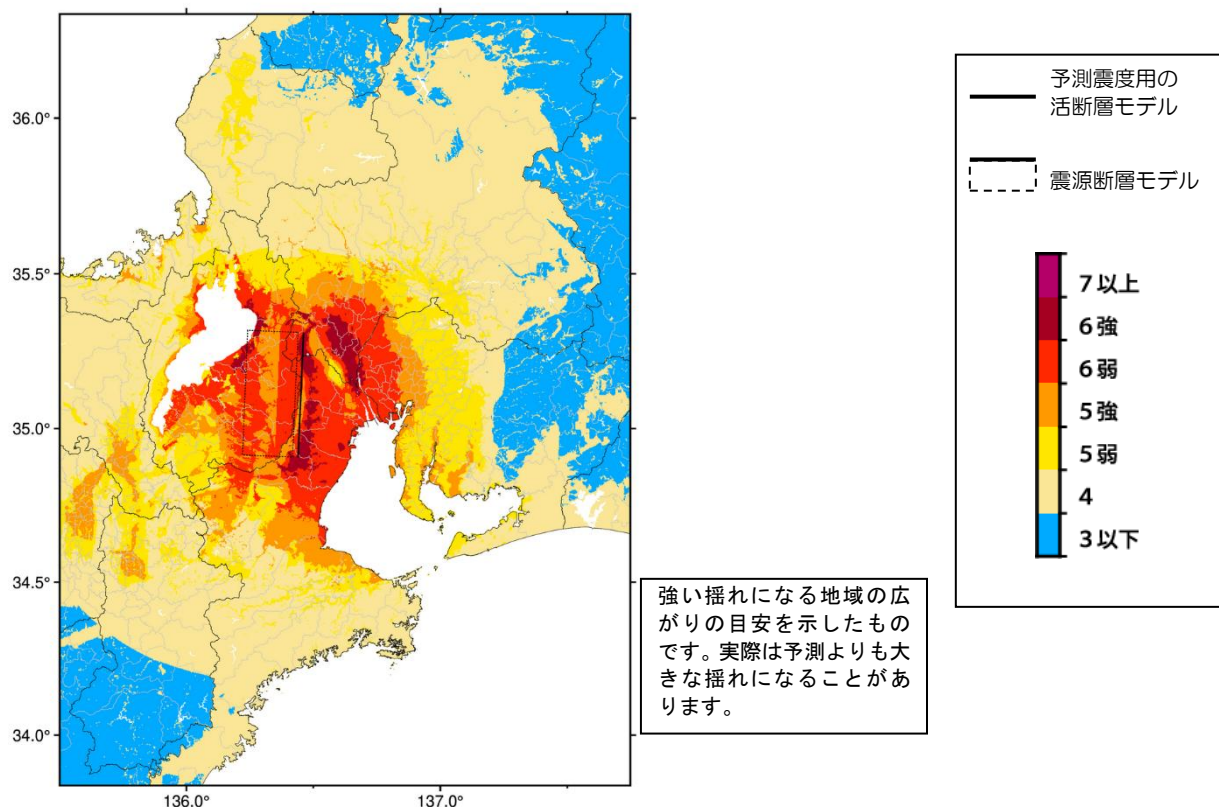
柳ヶ瀬－関ヶ原断層帯の北部区間と中部区間あるいは中部区間と南部区間など複数区間が同時に活動する可能性も考えられ、柳ヶ瀬－関ヶ原断層帯 北部区間と中部区間と南部区間全体が一度に活動した場合は、M8.1－8.3 程度の規模の地震になる可能性があります。

前4ページの図は、そのような地震が発生した場合に予測される、活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも1～2ランク程度大きくなる場合があります。特に活断層の近傍などの震度6弱の場所においても、震度6強以上の揺れになることがあります。

【参考】鈴鹿山脈東縁断層帯の地震による予測震度分布（簡便法）

鈴鹿山脈東縁断層帯



活断層モデル：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。

震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解 説

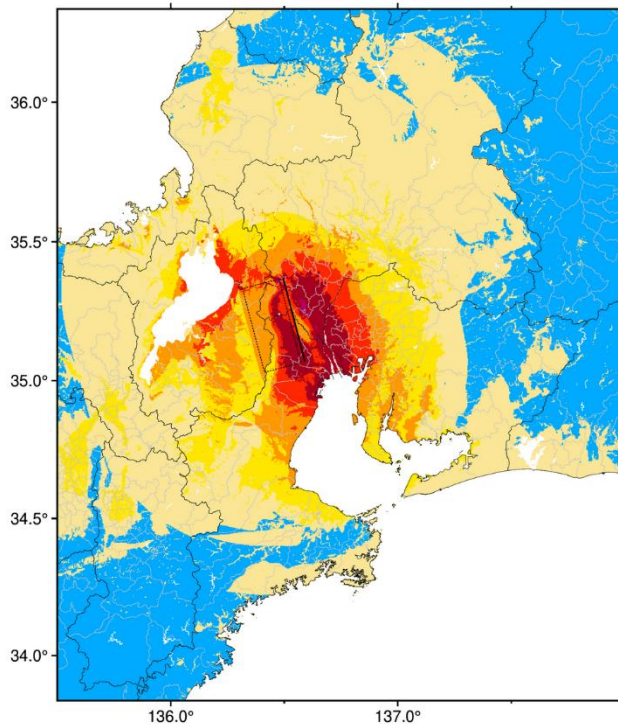
鈴鹿山脈東縁断層帯は、主に鈴鹿山脈の東麓及び西麓地域に分布するほぼ南北走向の長さ約 45 km の西側隆起の逆断層です。

鈴鹿山脈東縁断層帯全体が 1 つの区間として一度に活動した場合、その地震の規模は M7.6 程度になる可能性があります。上の図は、そのような地震が発生した場合に予測される、活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも 1～2 ランク程度大きくなる場合があります。特に活断層の近傍などの震度 6 弱の場所においても、震度 6 強以上の揺れになることがあります。

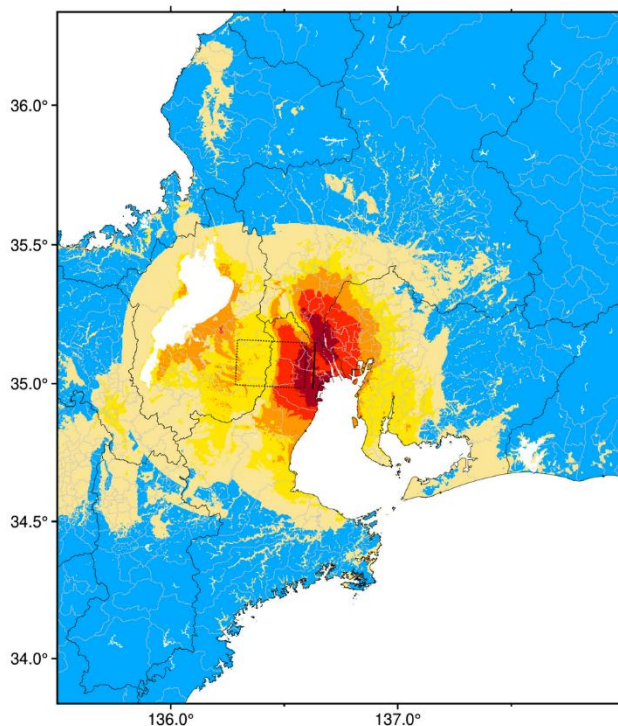
【参考】養老－桑名－四日市断層帯の地震による予測震度分布（簡便法）

養老－桑名－四日市断層帯 北部区間

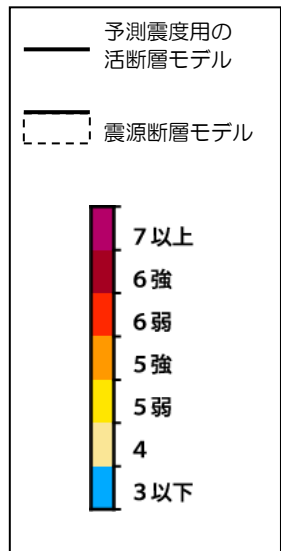


強い揺れになる地域の広がりを目安を示したものです。実際は予測よりも大きな揺れになることがあります。

養老－桑名－四日市断層帯 中部区間



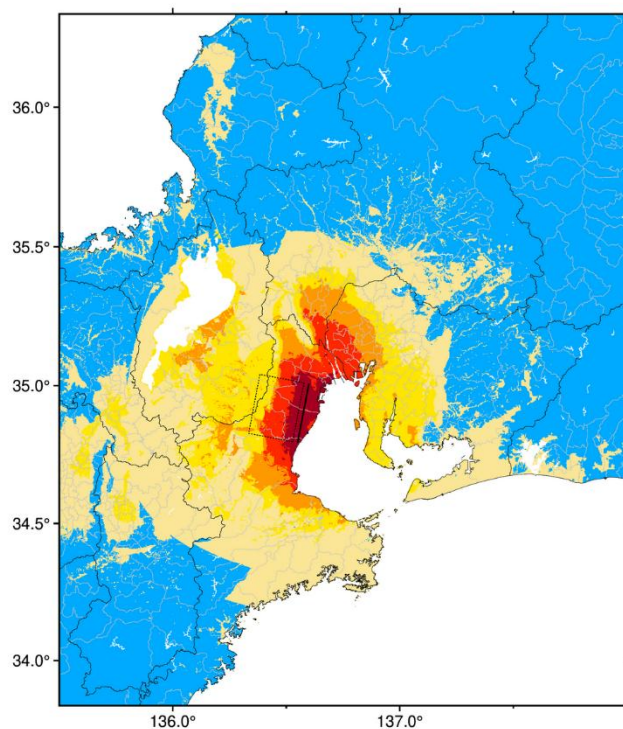
強い揺れになる地域の広がりを目安を示したものです。実際は予測よりも大きな揺れになることがあります。



活断層モデル：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。

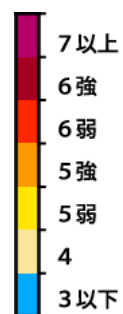
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

養老－桑名－四日市断層帯 南部区間

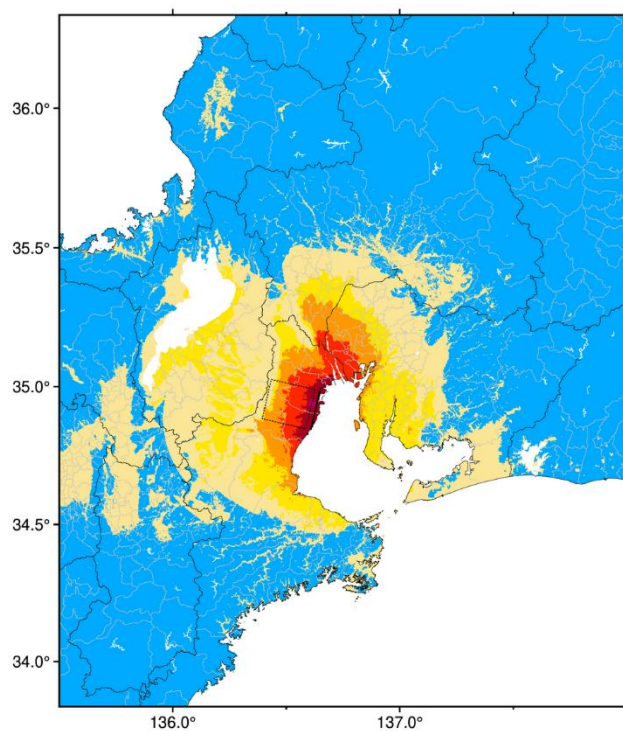


強い揺れになる地域の広
がりの目安を示したもの
です。実際は予測よりも大
きな揺れになることがあ
ります。

— 予測震度用の
活断層モデル
- - - 震源断層モデル

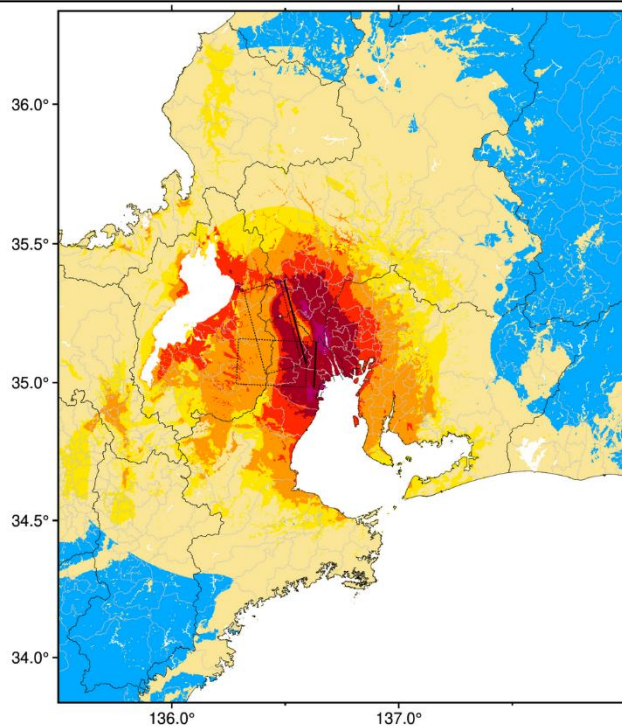


養老－桑名－四日市断層帯 鈴鹿沖区間



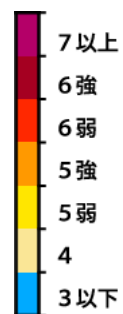
強い揺れになる地域の広
がりの目安を示したもの
です。実際は予測よりも大
きな揺れになることがあ
ります。

同時活動（養老－桑名－四日市断層帯 北部区間・中部区間）

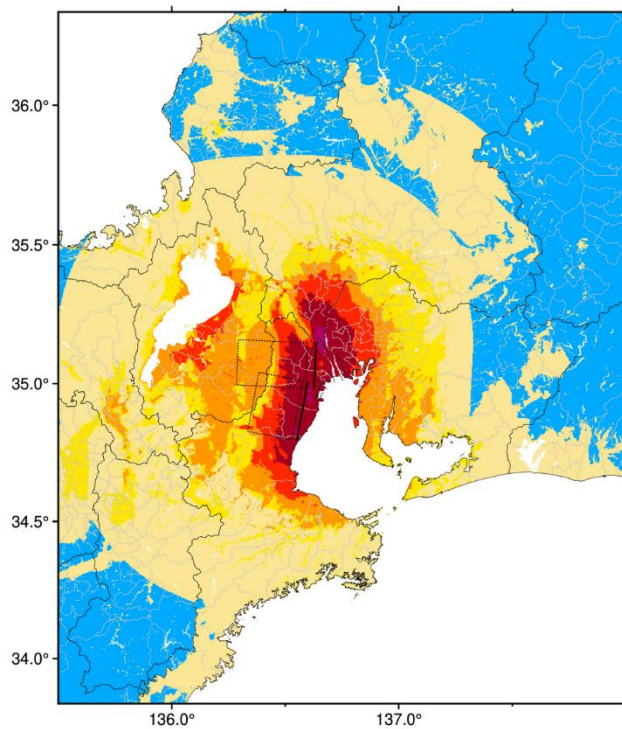


強い揺れになる地域の広
がりの目安を示したもの
です。実際は予測よりも大
きな揺れになることがあ
ります。

— 予測震度用の
活断層モデル
- - - 震源断層モデル

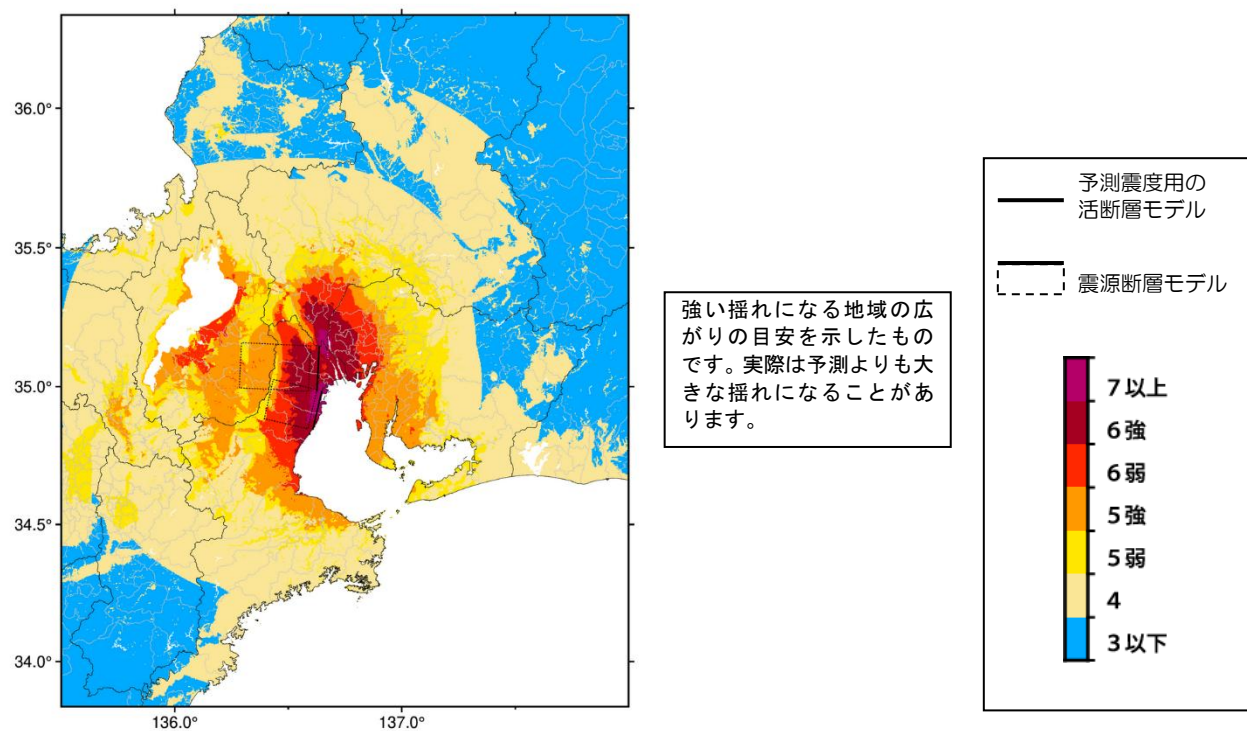


同時活動（養老－桑名－四日市断層帯 中部区間・南部区間）

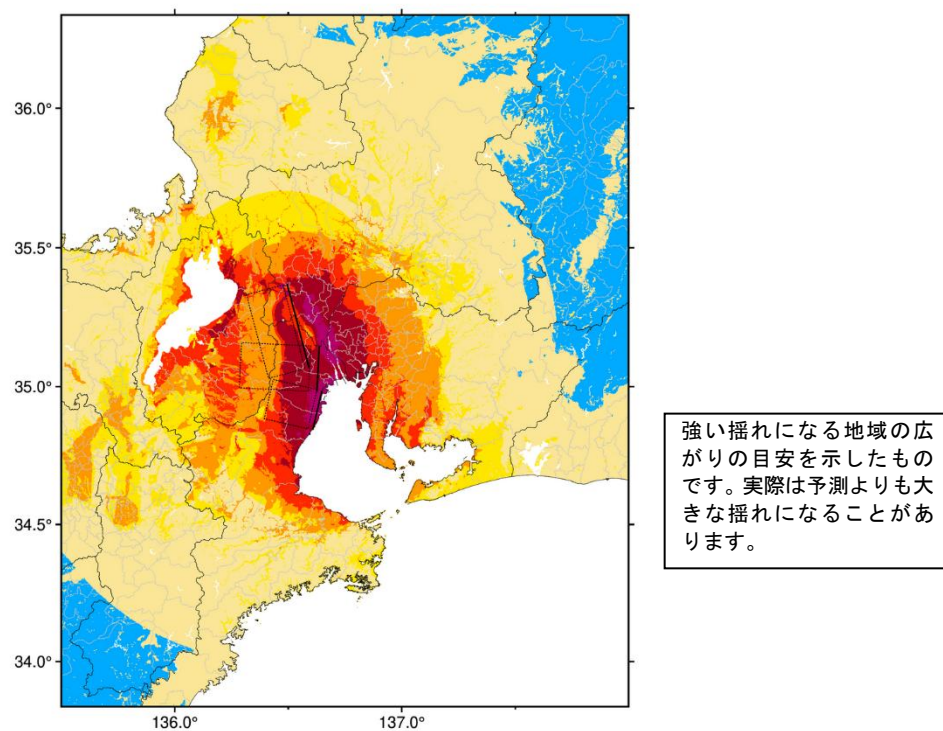


強い揺れになる地域の広
がりの目安を示したもの
です。実際は予測よりも大
きな揺れになることがあ
ります。

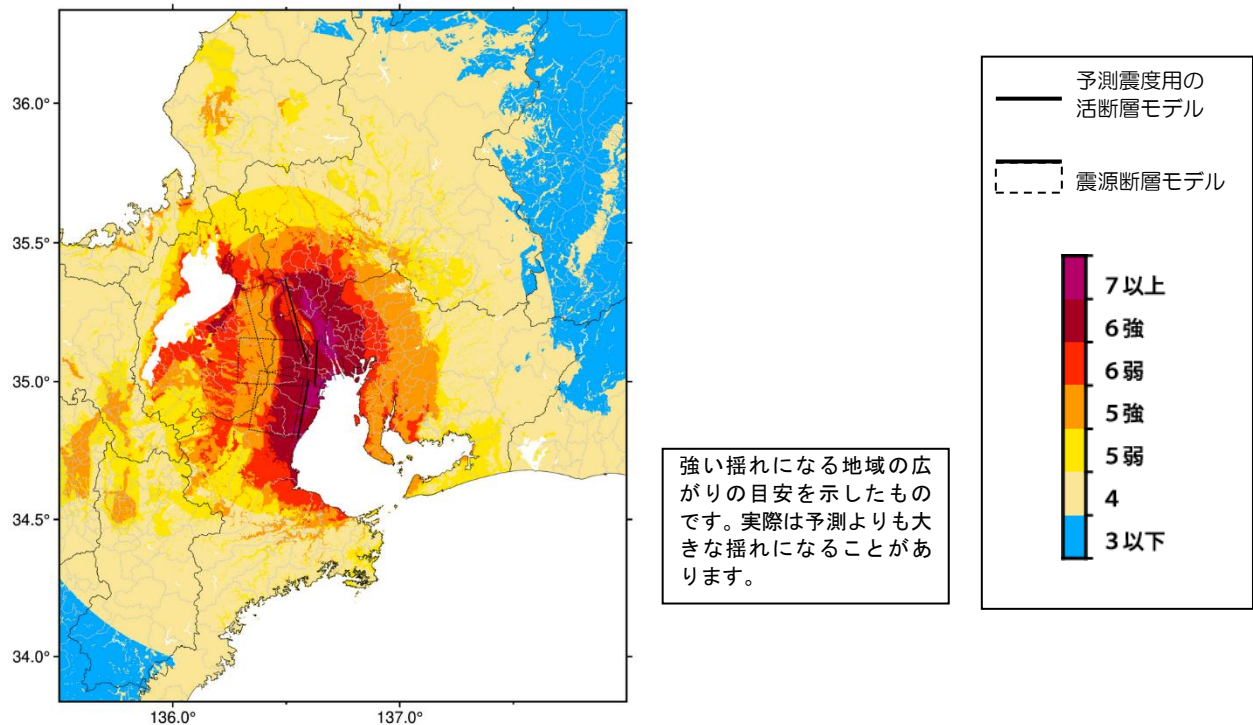
同時活動（養老－桑名－四日市断層帯 中部区間・鈴鹿沖区間）



同時活動（養老－桑名－四日市断層帯 北部区間・中部区間・鈴鹿沖区間）



同時活動（養老－桑名－四日市断層帯 北部区間・中部区間・南部区間）



解 説

養老－桑名－四日市断層帯は、岐阜県関ヶ原町から三重県桑名市を経て津市まで、主に養老山地と濃尾平野の境界及び養老山地の南に続く丘陵地の東縁に沿って延びる長さ約 64 km の断層帯です。構成断層の位置・形状や活動時期などに基づき、北部区間、中部区間、南部区間、鈴鹿沖区間に区分されます。

北部区間は長さ約 35 km の西側隆起の逆断層です。北部区間全体が一度に活動した場合、その地震の規模はマグニチュード (M) 7.4 程度になる可能性があります。

中部区間は長さ約 18 km の西側隆起の逆断層です。中部区間全体が一度に活動した場合、その地震の規模は M6.9 程度になる可能性があります。

南部区間は長さ約 24 km の西側隆起の逆断層です。南部区間全体が一度に活動した場合、その地震の規模は M7.1 程度になる可能性があります。

鈴鹿沖区間は長さ約 16 km の西側隆起の逆断層です。鈴鹿沖区間全体が一度に活動した場合、その地震の規模は M6.8 程度になる可能性があります。

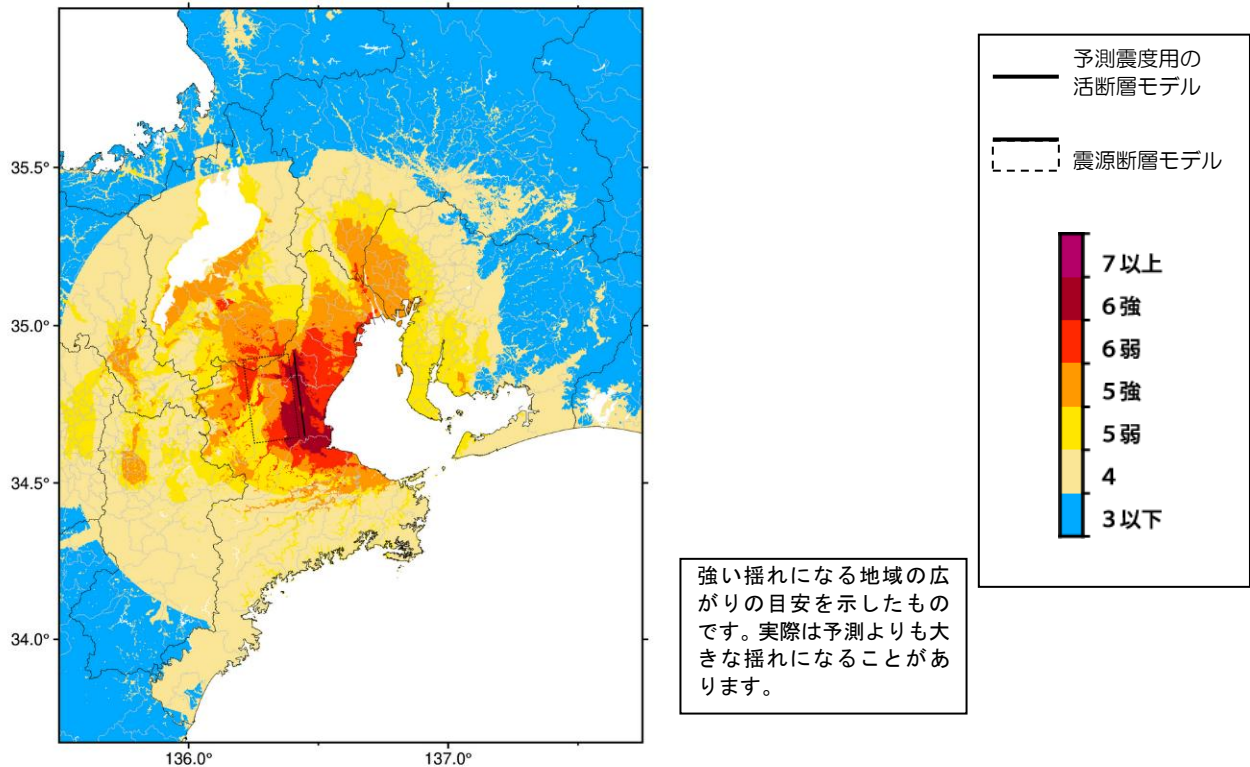
北部区間と中部区間、中部区間と南部区間、中部区間と鈴鹿沖区間、北部区間と中部区間と南部区間のように複数区間が一度に活動した場合は M7.4－7.8 程度、断層帯全体が 1 つの区間として活動した場合は M7.8 程度の規模の地震になる可能性があります。

前5ページの図は、そのような地震が発生した場合に予測される、活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも1～2ランク程度大きくなる場合があります。特に活断層の近傍などの震度6弱の場所においても、震度6強以上の揺れになることがあります。

【参考】布引山地東縁断層帯の地震による予測震度分布（簡便法）

布引山地東縁断層帯



活断層モデル：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。

震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解 説

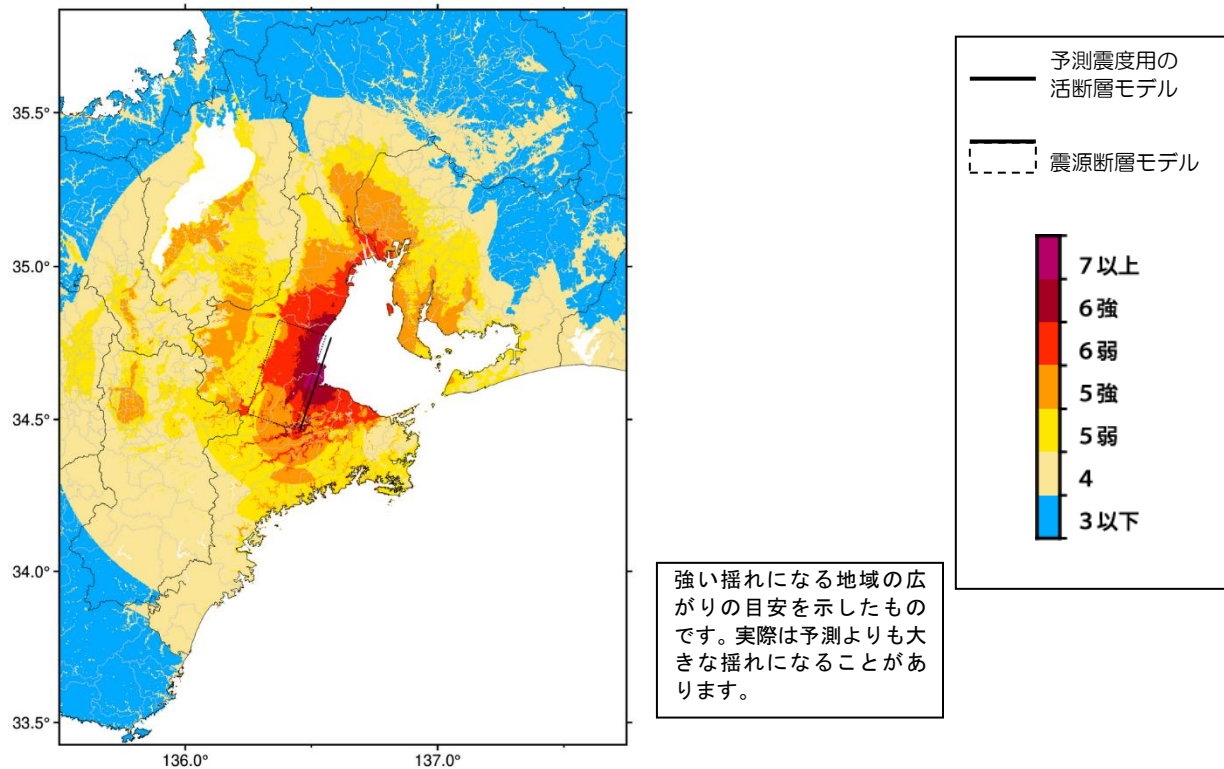
布引山地東縁断層帯は、三重県の北部から中部及び滋賀県南部から三重県西部にかけて、布引山地の東縁及び西縁に位置する長さ約 30 km の西側隆起の逆断層です。

布引山地東縁断層帯全体が 1 つの区間として一度に活動した場合、その地震の規模は M7.3 程度になる可能性があります。上の図は、そのような地震が発生した場合に予測される、活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも 1～2 ランク程度大きくなる場合があります。特に活断層の近傍などの震度 6 弱の場所においても、震度 6 強以上の揺れになることがあります。

【参考】高茶屋断層帯の地震による予測震度分布（簡便法）

高茶屋断層帯



活断層モデル：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。

震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解 説

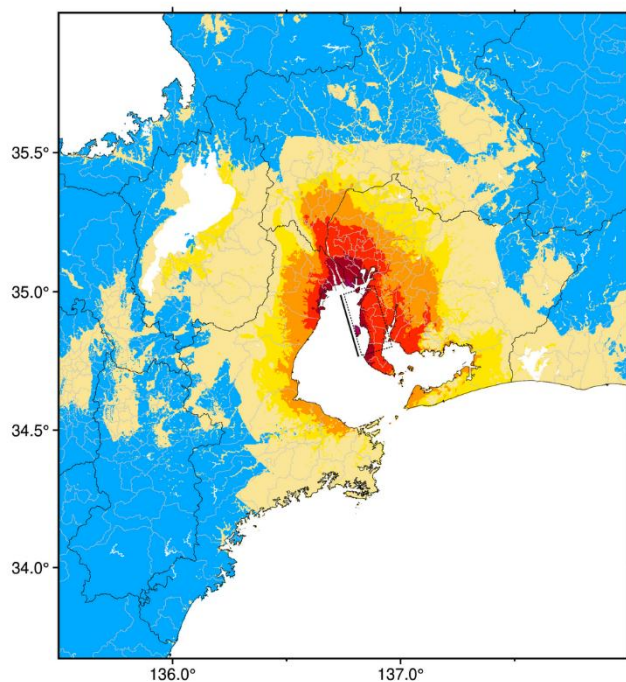
高茶屋断層帯は、三重県津市の沖合の海域から、津市、松阪市、多気郡多気町に至る長さ約 36 km の西側隆起の逆断層です。

高茶屋断層帯全体が 1 つの区間として一度に活動した場合、その地震の規模は M7.4 程度になる可能性があります。上の図は、そのような地震が発生した場合に予測される、活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも 1～2 ランク程度大きくなる場合があります。特に活断層の近傍などの震度 6 弱の場所においても、震度 6 強以上の揺れになることがあります。

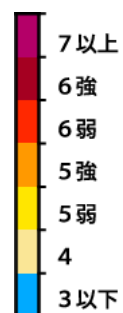
【参考】伊勢湾断層帯の地震による予測震度分布（簡便法）

伊勢湾断層帯北部

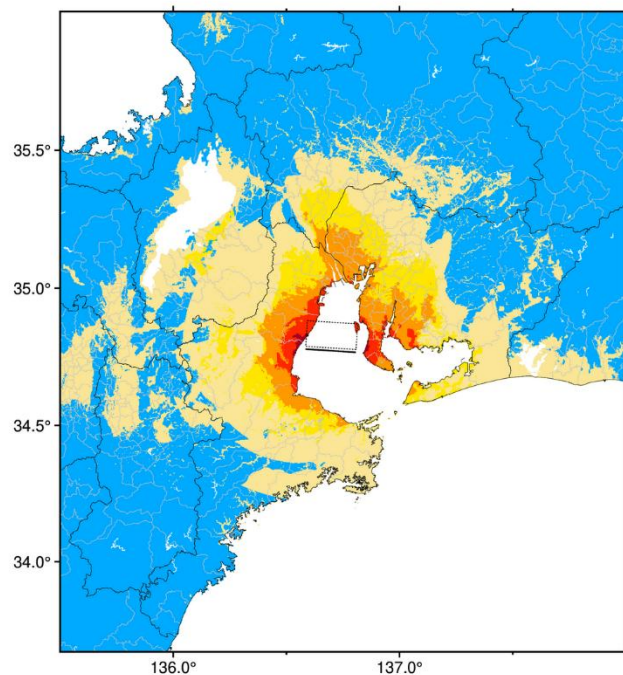


強い揺れになる地域の広がりを目安を示したものです。実際は予測よりも大きな揺れになることがあります。

— 予測震度用の
活断層モデル
- - - 震源断層モデル



伊勢湾断層帯南部 白子－野間区間

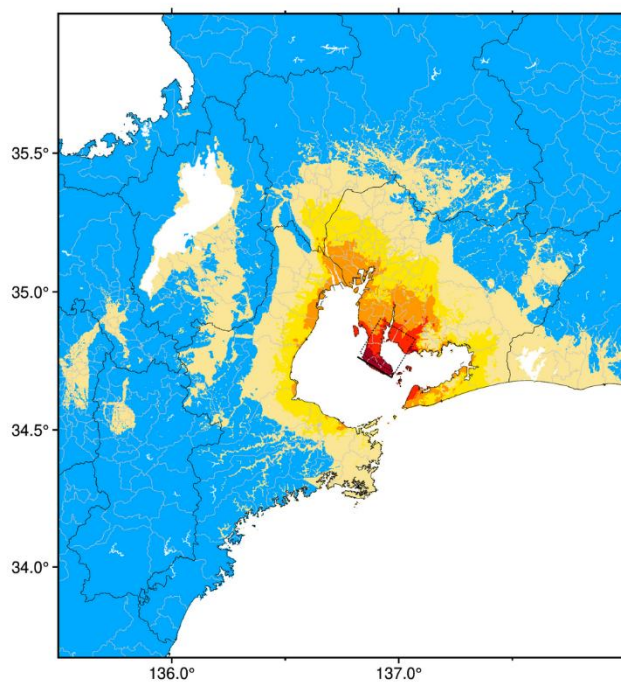


強い揺れになる地域の広がりを目安を示したものです。実際は予測よりも大きな揺れになることがあります。

活断層モデル：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。

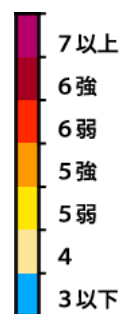
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

伊勢湾断層帯南部 内海区間

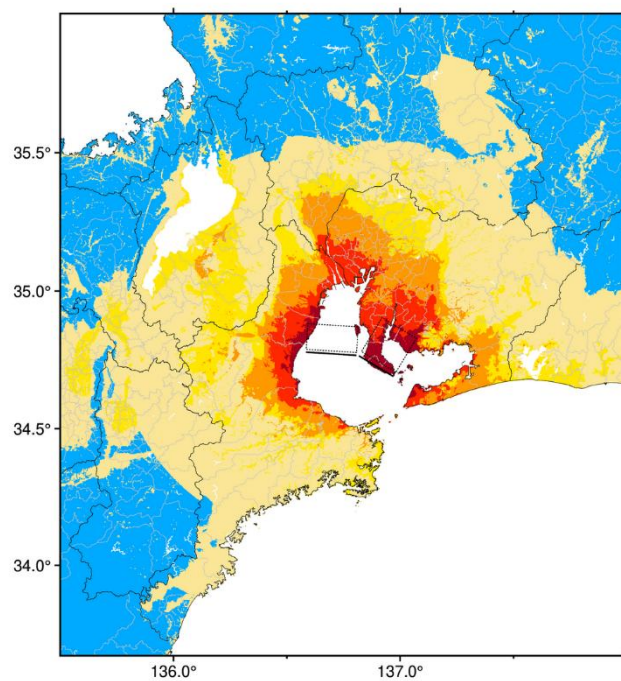


強い揺れになる地域の広がり目安を示したものです。実際は予測よりも大きな揺れになることがあります。

— 予測震度用の活断層モデル
- - - 震源断層モデル



同時活動（伊勢湾断層帯南部 白子一野間区間・内海区間）



強い揺れになる地域の広がり目安を示したものです。実際は予測よりも大きな揺れになることがあります。

解 説

伊勢湾断層帯は、伊勢湾中・北部の海域に分布する断層帯です。木曽川河口の南方海域から愛知県知多郡美浜町の西方海域に延びる長さ約 26 km の伊勢湾断層帯北部と、三重県津市河芸町沖合から愛知県知多郡南知多町の南方海域に達する長さ約 36 km の伊勢湾断層帯南部から構成されます。伊勢湾断層帯南部は、西部の白子ー野間区間と内海区間に細分されます。

伊勢湾断層帯北部は長さ約 26 km の東側隆起の逆断層です。伊勢湾断層帯北部全体が一度に活動した場合、その地震の規模はマグニチュード (M) 7.2 程度になる可能性があります。

伊勢湾断層帯南部 白子ー野間区間は長さ約 20 km の北側隆起の逆断層です。伊勢湾断層帯南部白子ー野間区間全体が一度に活動した場合、その地震の規模は M7.0 程度になる可能性があります。

伊勢湾断層帯南部 内海区間は長さ約 16 km の北側隆起の逆断層です。伊勢湾断層帯南部 内海区間全体が一度に活動した場合、その地震の規模は M6.8 程度になる可能性があります。

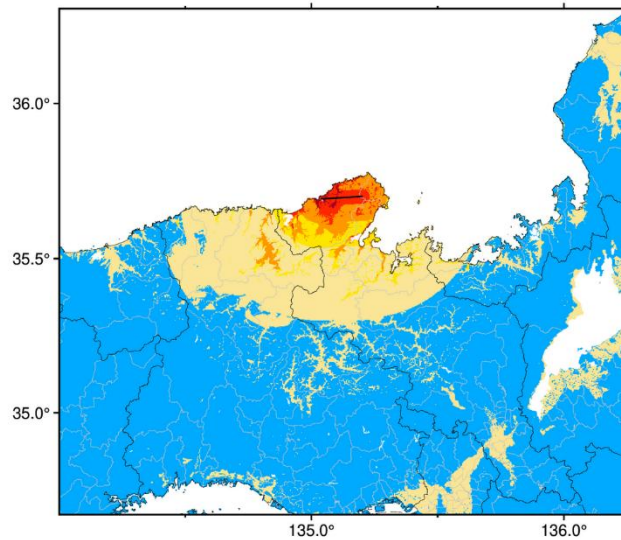
伊勢湾断層帯南部の白子ー野間区間と内海区間が一度に活動した場合は M7.4 程度の規模の地震になる可能性があります。

前 2 ページの図は、そのような地震が発生した場合に予測される、活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

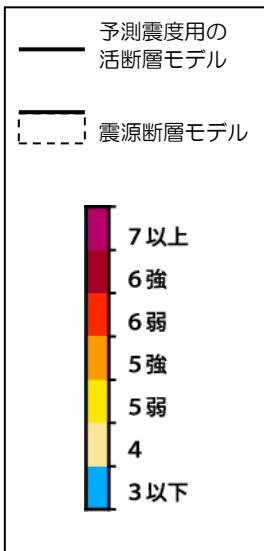
なお、実際の揺れは、予測されたものよりも 1～2 ランク程度大きくなる場合があります。特に活断層の近傍などの震度 6 弱の場所においても、震度 6 強以上の揺れになることがあります。

【参考】簡便評価した活断層の地震による予測震度分布（簡便法）

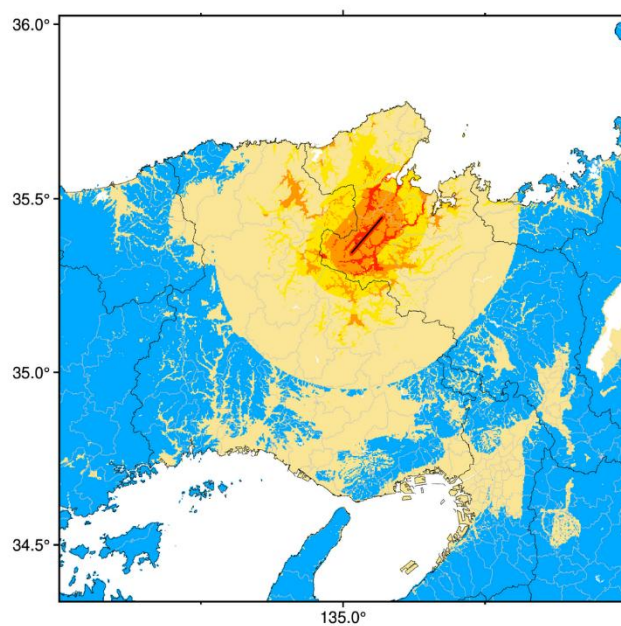
中山断層



強い揺れになる地域の広がりを目安を示したものです。実際は予測よりも大きな揺れになることがあります。



三岳山断層

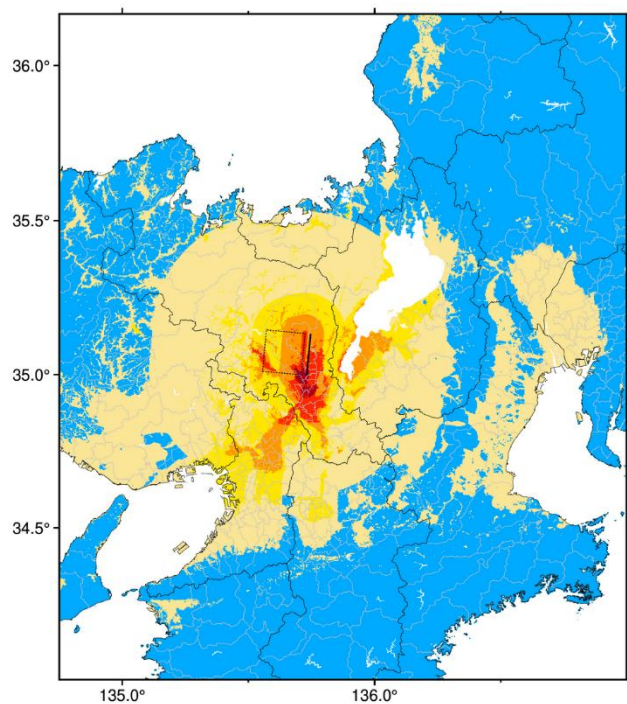


強い揺れになる地域の広がりを目安を示したものです。実際は予測よりも大きな揺れになることがあります。

活断層モデル：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。

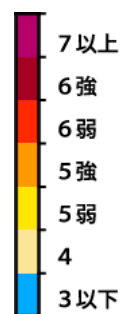
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

西賀茂断層

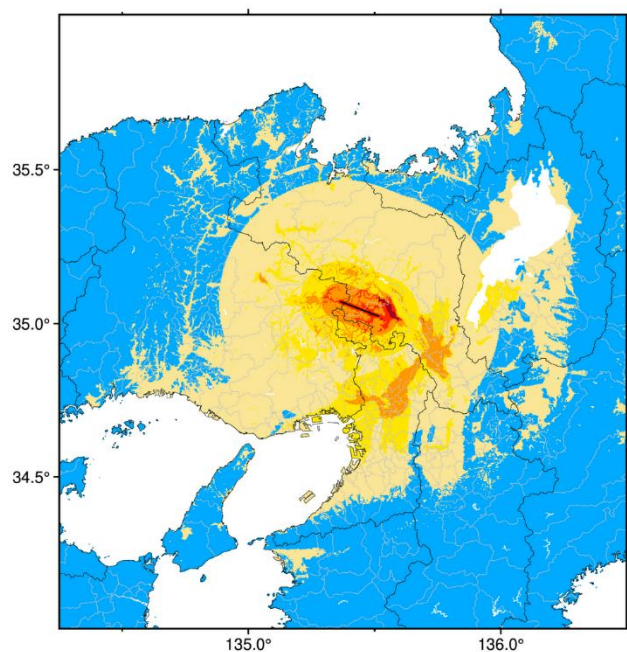


強い揺れになる地域の広がりを目安を示したものです。実際は予測よりも大きな揺れになることがあります。

— 予測震度用の
活断層モデル
- - - 震源断層モデル

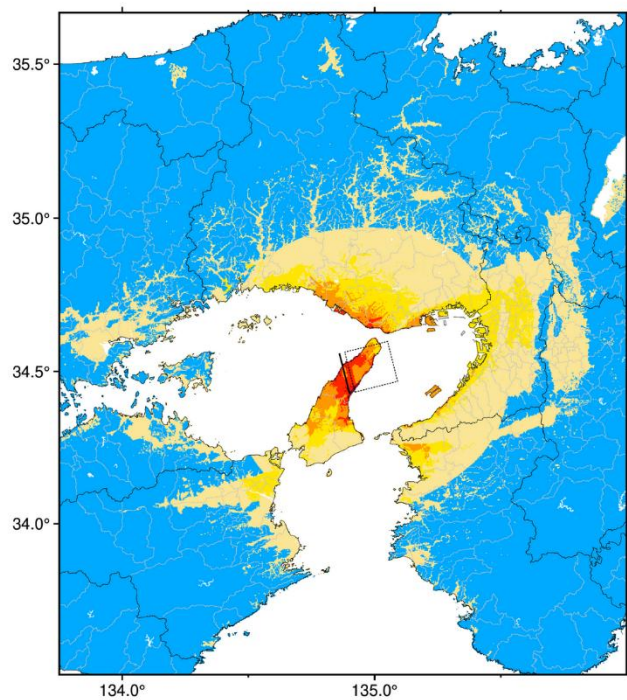


埴生—猪倉断層



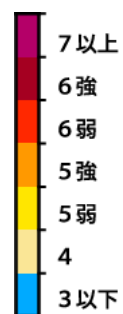
強い揺れになる地域の広がりを目安を示したものです。実際は予測よりも大きな揺れになることがあります。

志筑断層

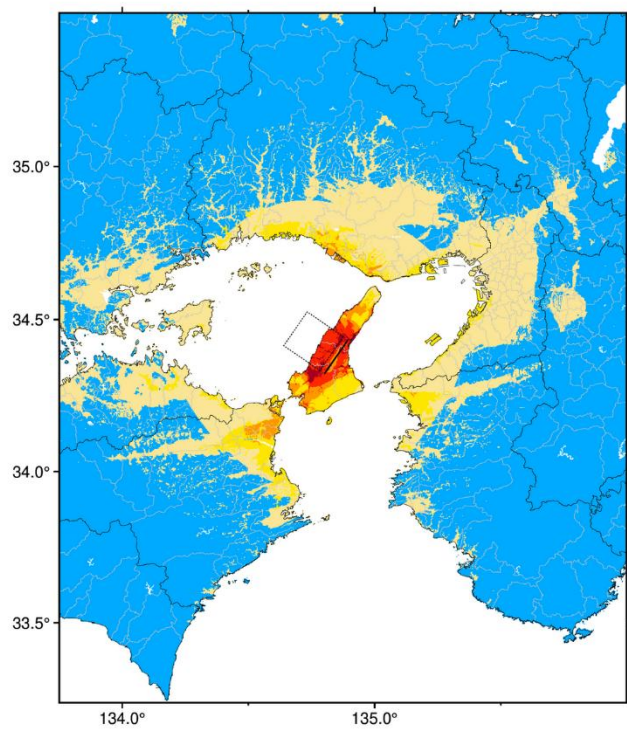


強い揺れになる地域の広がり目安を示したものです。実際は予測よりも大きな揺れになることがあります。

— 予測震度用の
活断層モデル
--- 震源断層モデル

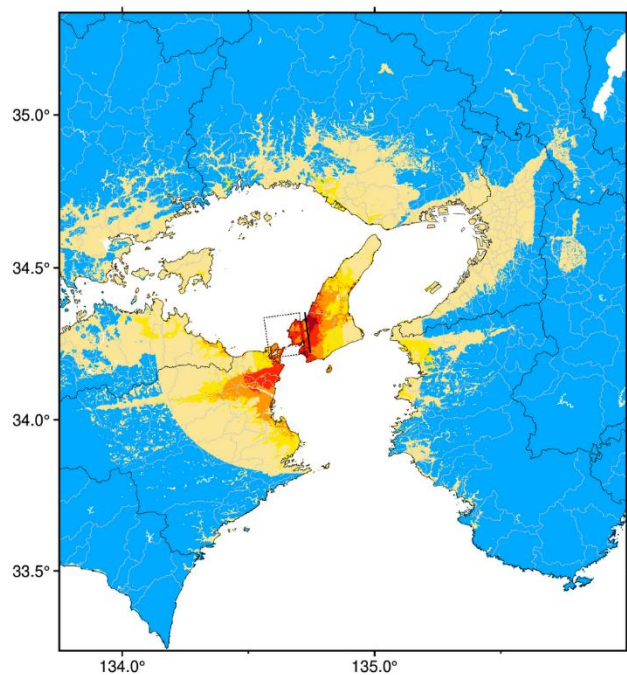


先山—安平断層



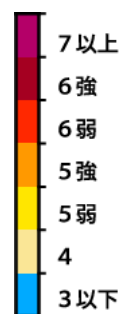
強い揺れになる地域の広がり目安を示したものです。実際は予測よりも大きな揺れになることがあります。

飯山寺断層

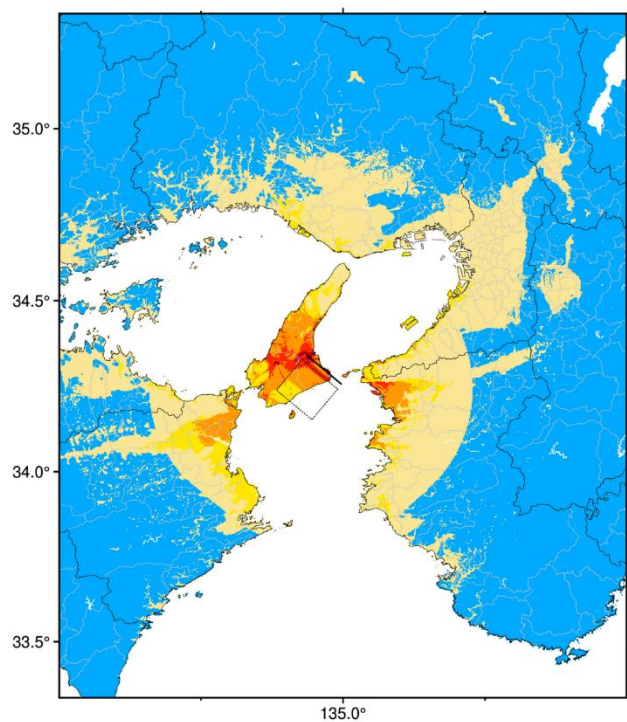


強い揺れになる地域の広がり目安を示したものです。実際は予測よりも大きな揺れになることがあります。

— 予測震度用の活断層モデル
 - - - 震源断層モデル

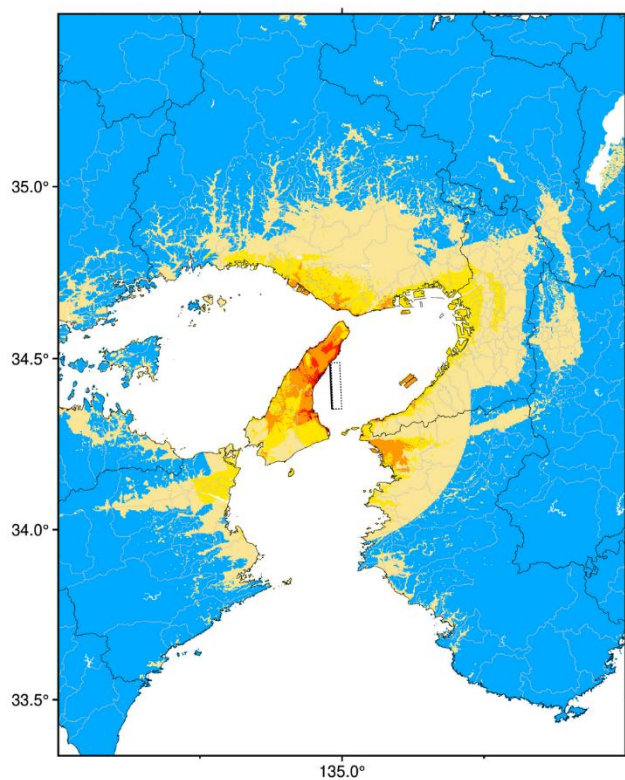


由良断層

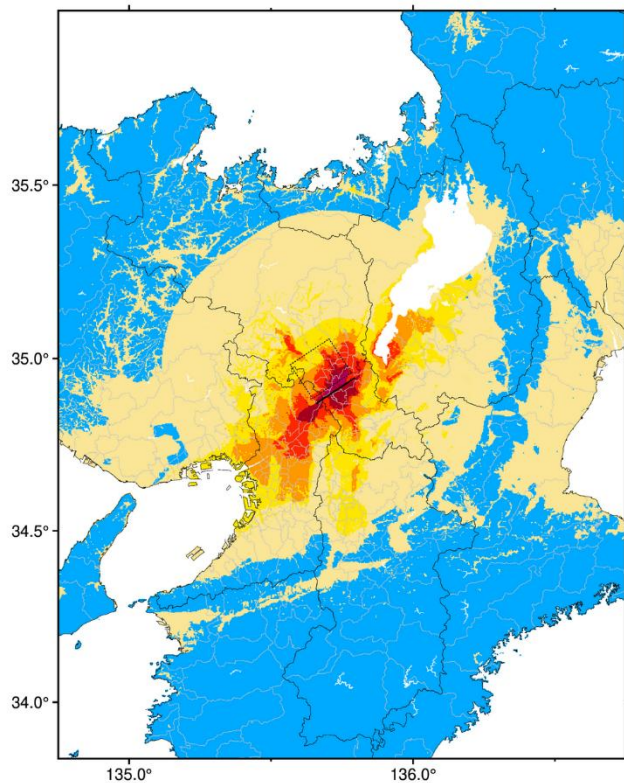


強い揺れになる地域の広がり目安を示したものです。実際は予測よりも大きな揺れになることがあります。

津名沖断層

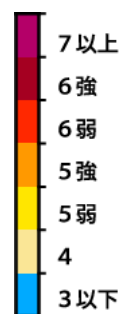


宇治川断層

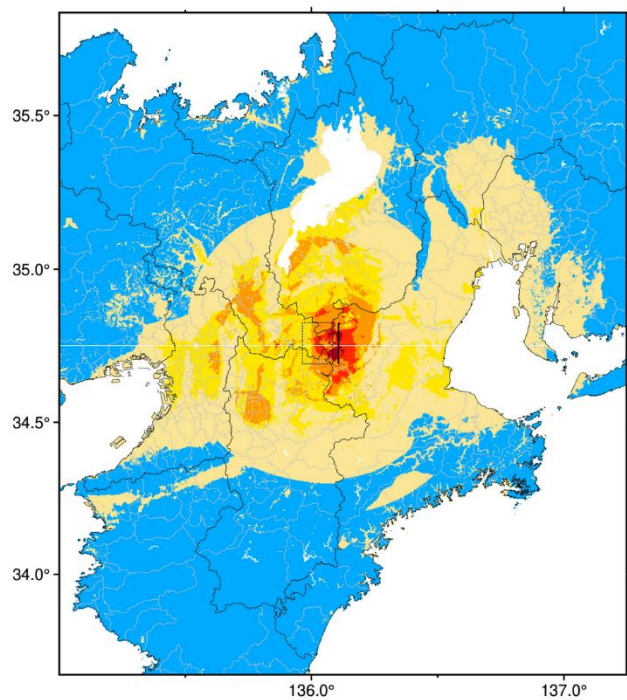


— 予測震度用の
活断層モデル

- - - 震源断層モデル

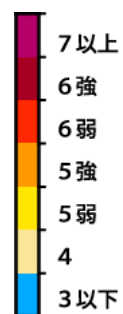


大野木断層

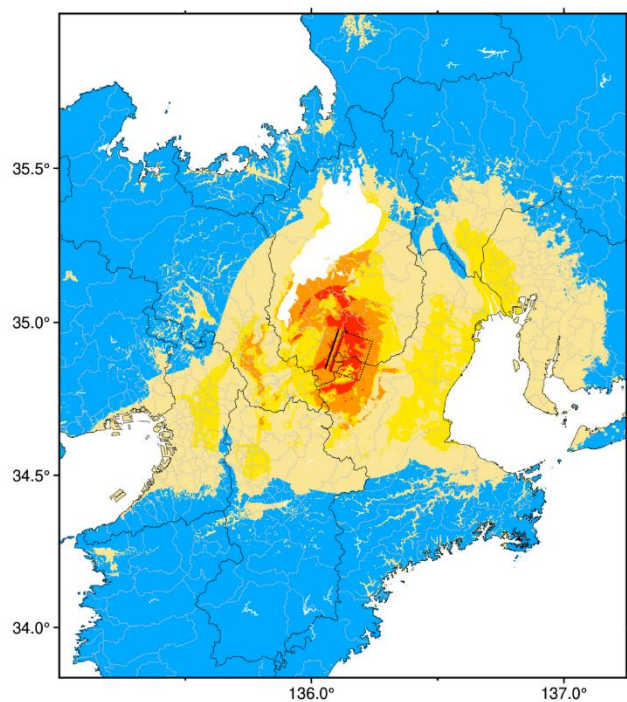


強い揺れになる地域の広がり目安を示したものです。実際は予測よりも大きな揺れになることがあります。

— 予測震度用の
活断層モデル
- - - 震源断層モデル

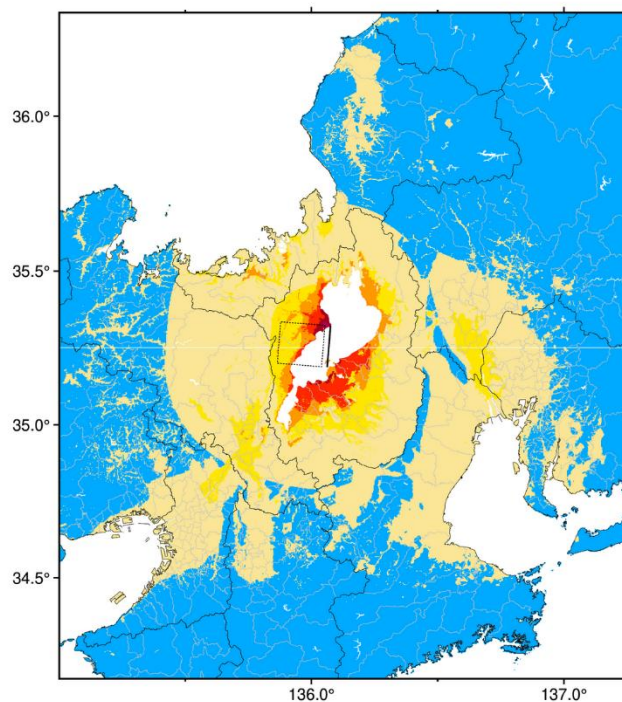


黄瀬断層



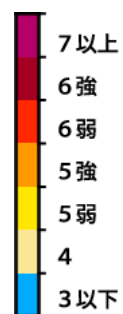
強い揺れになる地域の広がり目安を示したものです。実際は予測よりも大きな揺れになることがあります。

沖島北方沖断層

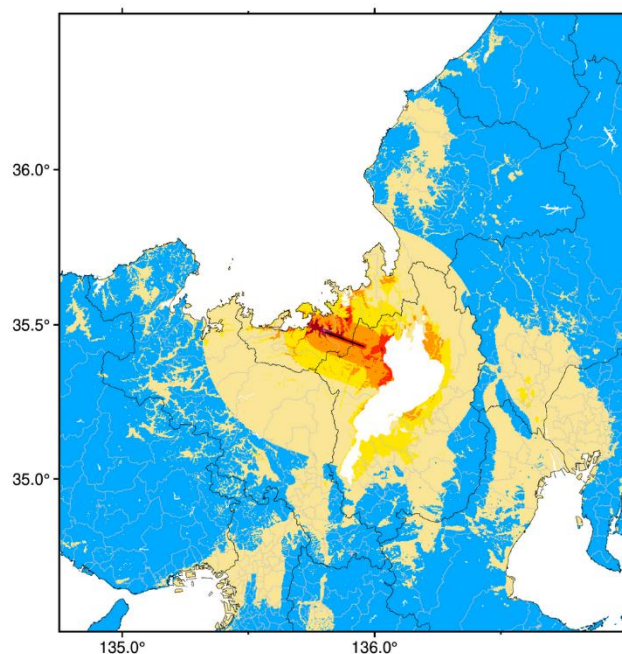


強い揺れになる地域の広がり目安を示したものです。実際は予測よりも大きな揺れになることがあります。

予測震度用の
活断層モデル
震源断層モデル

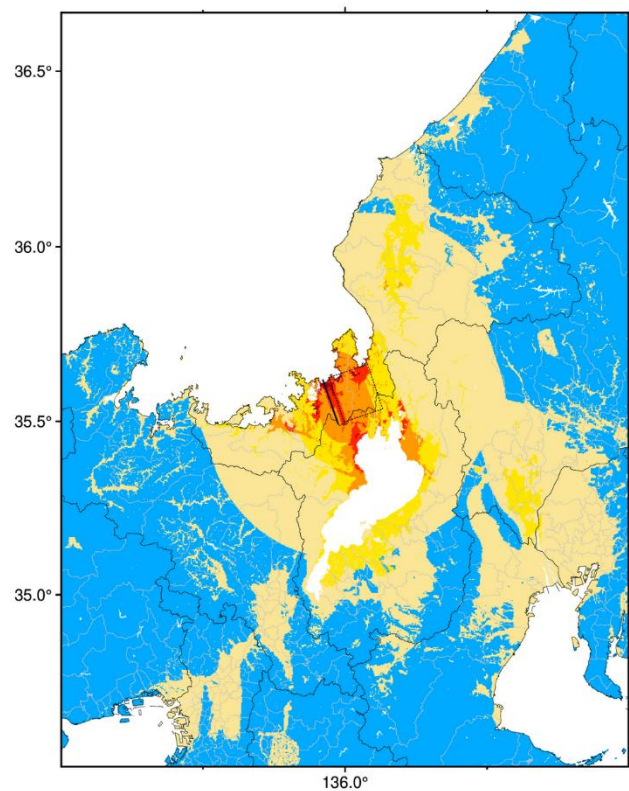


熊川断層



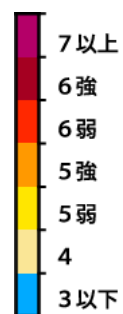
強い揺れになる地域の広がり目安を示したものです。実際は予測よりも大きな揺れになることがあります。

耳川断層

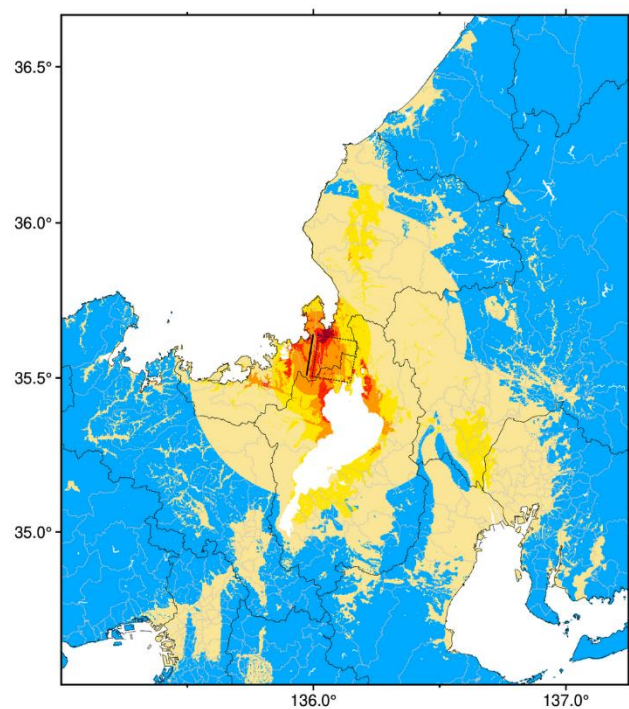


強い揺れになる地域の広がり目安を示したものです。実際は予測よりも大きな揺れになることがあります。

— 予測震度用の
活断層モデル
- - - 震源断層モデル

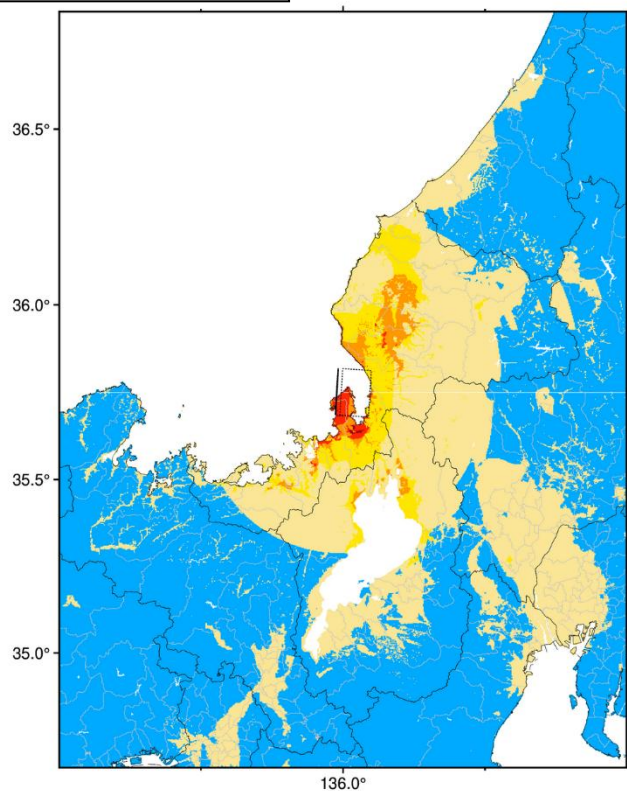


松屋断層



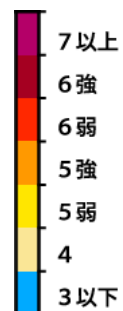
強い揺れになる地域の広がり目安を示したものです。実際は予測よりも大きな揺れになることがあります。

白木一丹生断層

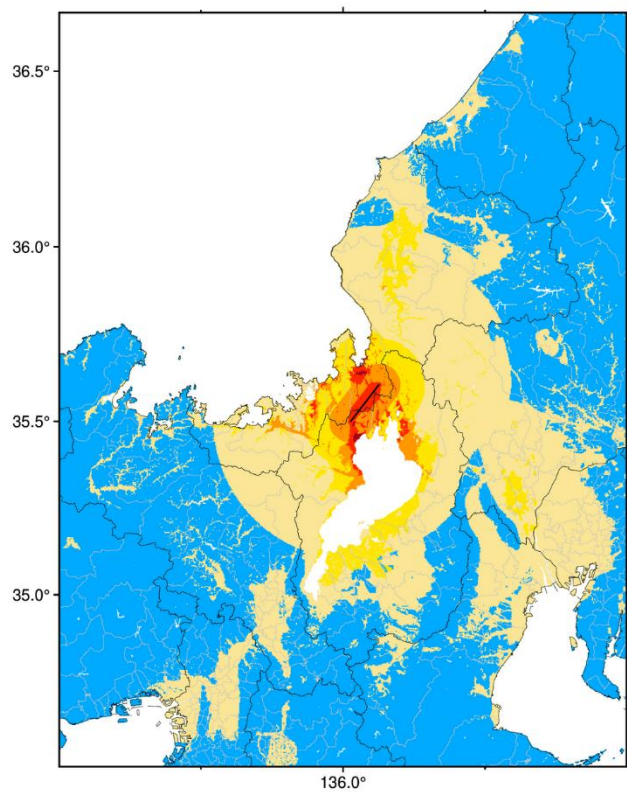


強い揺れになる地域の広
がりの目安を示したもの
です。実際は予測よりも大
きな揺れになることがあ
ります。

— 予測震度用の
活断層モデル
- - - 震源断層モデル

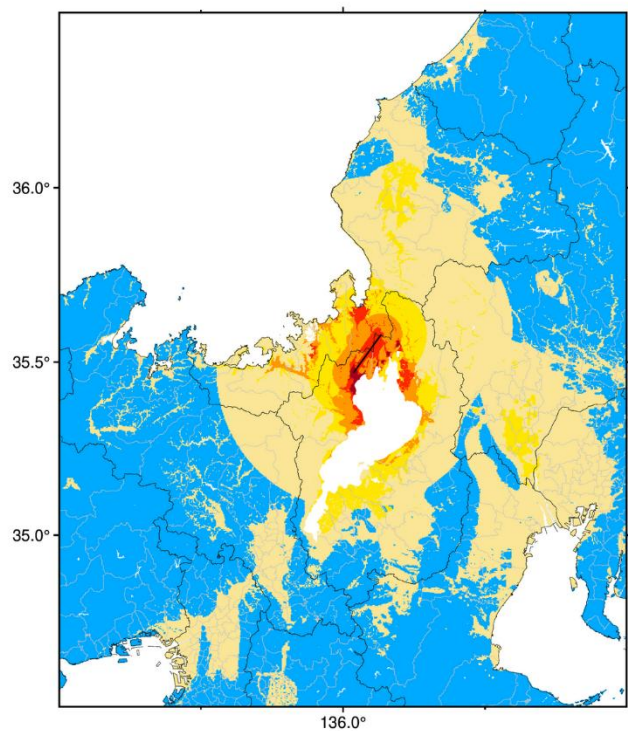


駄口断層



強い揺れになる地域の広
がりの目安を示したもの
です。実際は予測よりも大
きな揺れになることがあ
ります。

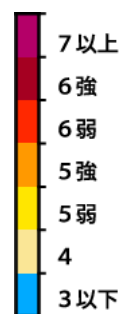
路原断層



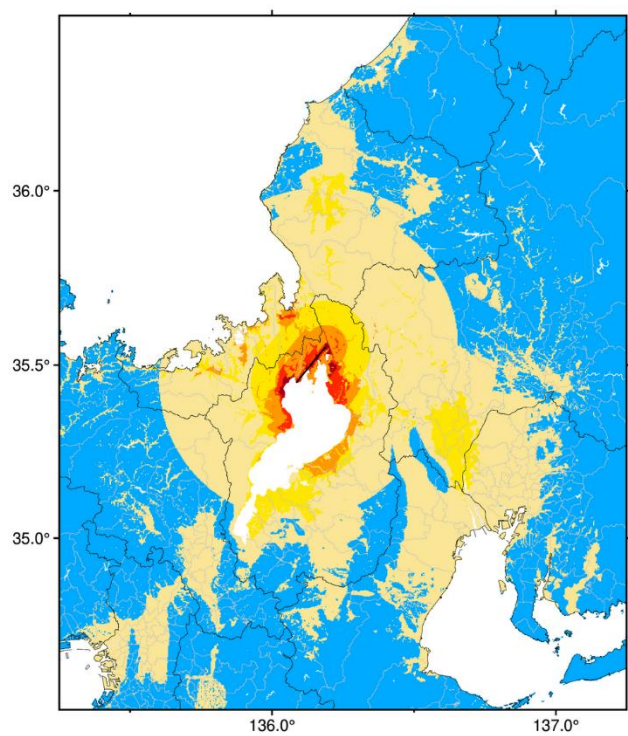
強い揺れになる地域の広
がりの目安を示したもの
です。実際は予測よりも大
きな揺れになることがあ
ります。

— 予測震度用の
活断層モデル

- - - 震源断層モデル

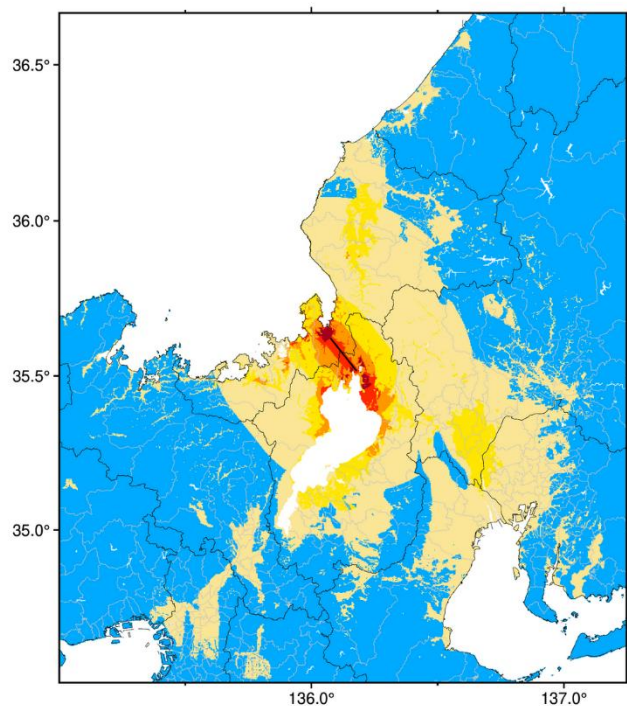


岩熊断層



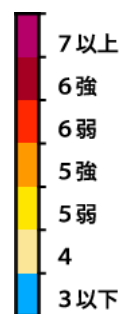
強い揺れになる地域の広
がりの目安を示したもの
です。実際は予測よりも大
きな揺れになることがあ
ります。

集福寺断層

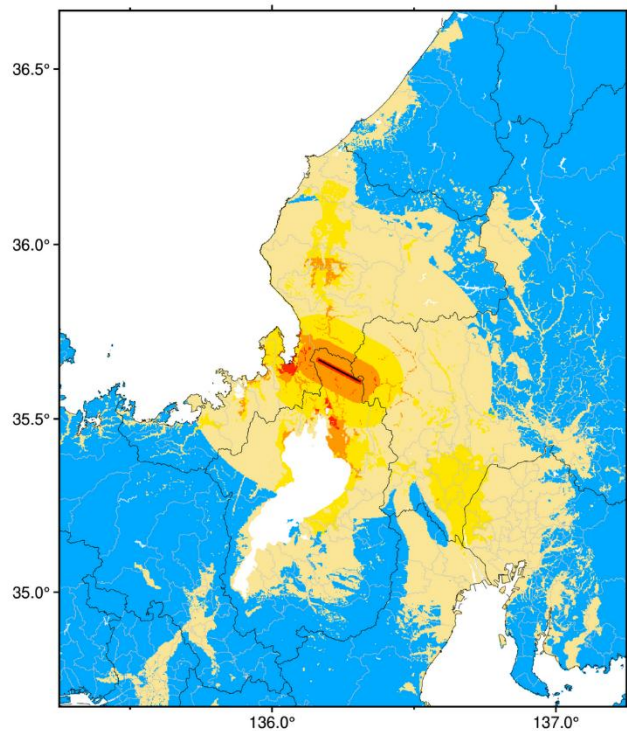


強い揺れになる地域の広がりを目安を示したものです。実際は予測よりも大きな揺れになることがあります。

— 予測震度用の
活断層モデル
- - - 震源断層モデル

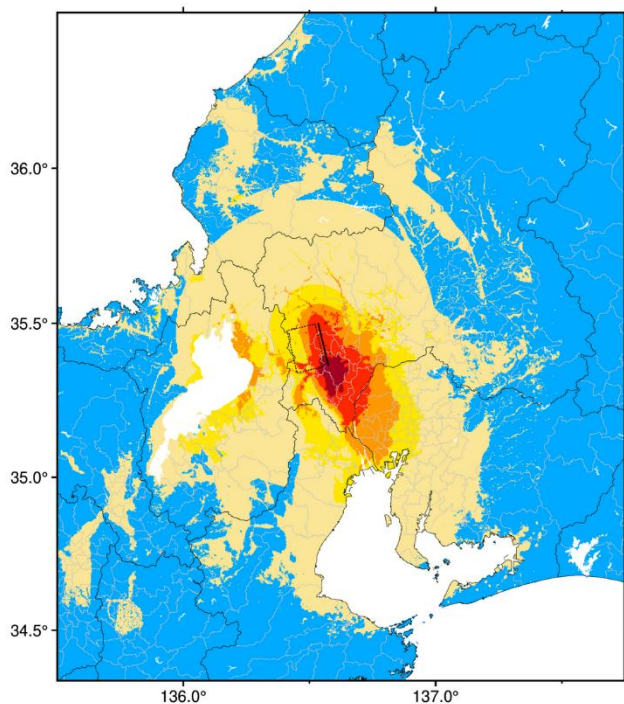


奥川並断層



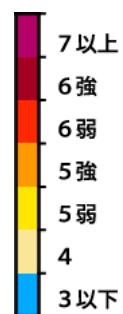
強い揺れになる地域の広がりを目安を示したものです。実際は予測よりも大きな揺れになることがあります。

池田山断層

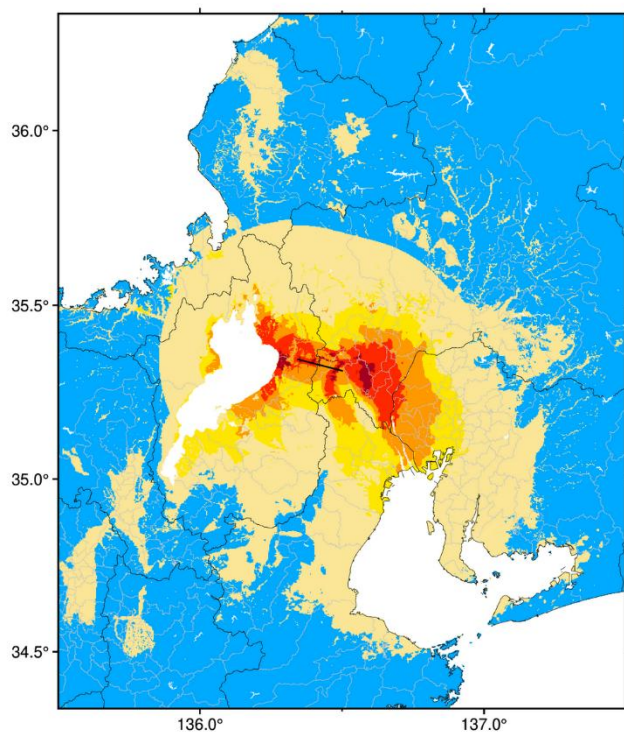


強い揺れになる地域の広がり目安を示したものです。実際は予測よりも大きな揺れになることがあります。

— 予測震度用の
活断層モデル
- - - 震源断層モデル



今須断層



強い揺れになる地域の広がり目安を示したものです。実際は予測よりも大きな揺れになることがあります。

○計算の前提について

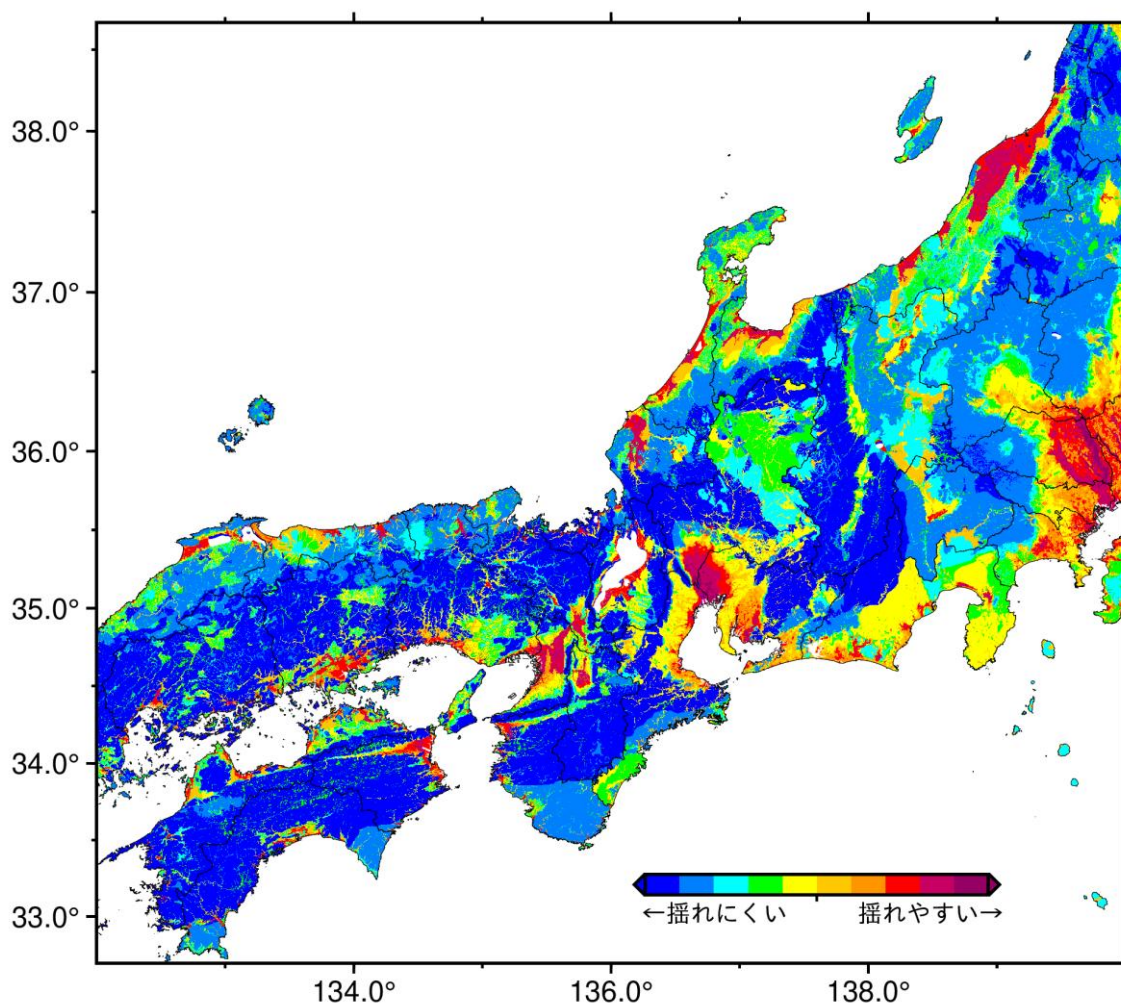
地震調査委員会では実施している強震動の計算には、地震の規模及び断層からの距離を用いて震度を計算する方法（簡便法）と、震源断層の破壊過程や深部の地下構造などをモデル化して地震動を詳細に計算する方法（詳細法）があります（次項参照）。

断層で発生する地震には様々なパターンがありますが、今回はそれらの平均的な揺れの程度を示すことを目的に、主に約 250 m 四方毎の震度を簡便法で計算しました。個々の地点での震度ではなく、強い揺れになる地域の広がり具合などに着目してご利用ください。

実際の揺れは、地震の発生の仕方や地盤の影響などにより、ここで予測されたものよりも 1～2 ランク程度、大きくなる場合がありますので、ご注意ください。

○地盤の影響について

揺れの大きさは、地震の規模や断層からの距離に加え、地盤の軟らかさやその厚さなどによって大きく変わります。下の図は浅い地盤での揺れの増幅率で、暖色ほど揺れやすくなることを示しています。



全国地震動予測地図 2020 年版（地震調査研究推進本部地震調査委員会，2021）で用いたデータ、及び 東海地方の浅部・深部統合地盤構造モデル（先名・他，2023）を使用

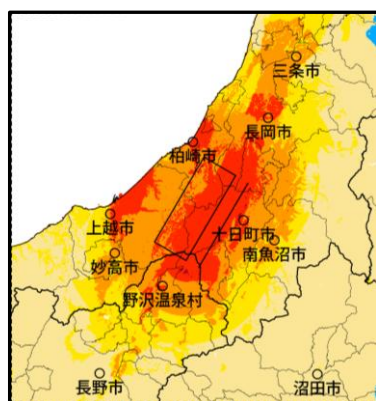
簡便法と詳細法による予測震度分布の計算結果の違いについて

～ 十日町断層帯西部の地震の例 ～

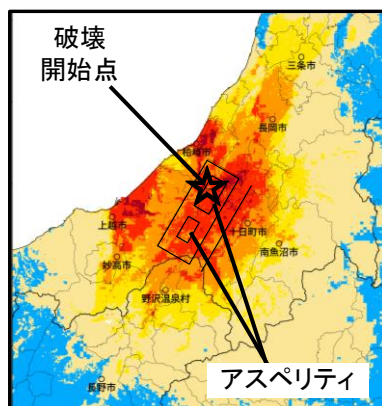
十日町断層帯西部の地震を想定した予測震度分布の例を以下に示します。

簡便法（左図）では、主に地震の規模と断層面からの距離及び浅い地盤での揺れの増幅を考慮して計算を行っています。この方法による予測震度は、微細な様子を示すものではなく、震度分布の概要を表したものとと言えます。

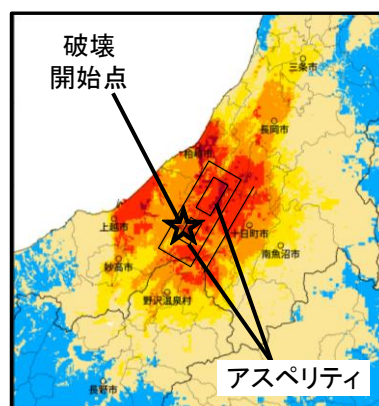
これに対し、詳細法（右4枚の図）では、破壊が始まる場所や、強い地震波を出す領域（アスペリティ）の位置を仮定して、複雑な地盤構造を考慮した計算を行っています。この方法によれば、簡便法に比べて、より詳細に実際の地震の起こり方を想定した震度分布を予測することができます。



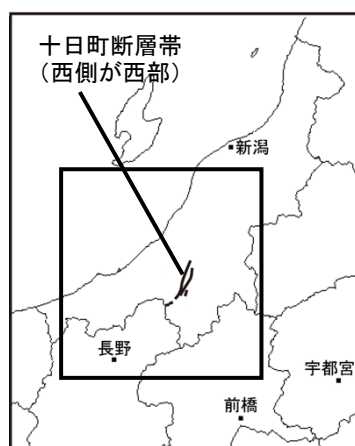
簡便法による予測震度分布
(今回適用した方法)



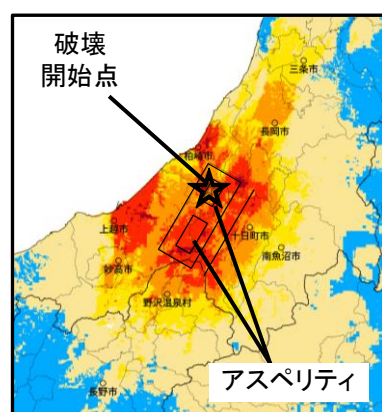
(ケース1)



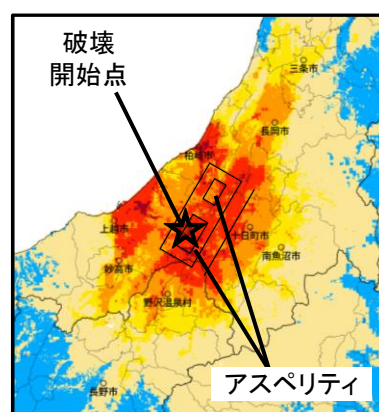
(ケース2)



十日町断層帯西部での計算結果
の表示範囲 (地図の黒枠内)



(ケース3)



(ケース4)

詳細法による予測震度分布
(震源の設定が異なる4ケースを計算)

